スポーツ庁

「スポーツ・健康まちづくり」
優良自治体表彰2026

スポーツ庁参事官（地域振興担当）

『オールシーズン・スポーツ・アクション・シティ旭川』～自然を活かした官民連携による持続可能なまちづくり

スポまち！表彰2026
①北海道旭川市

＜目標＞　計画期間：～令和１４年３月３１日

①多様な主体との連携による「誰もが日常的にスポーツを楽しむ環境」
②地域資源を生かした大会、合宿誘致（稼ぐ地域振興）
③こどもが将来に夢を持てるスポーツ体験（次世代育成）

数値目標

- テトラスキー体験者数　25人→500人
- スポーツ実施率（通年）57.1%→70%
- カムイスキーリンクス来場者　124,324人 →132,100人
- 子どもを対象にしたアスリートイベント数　15回 →30回

＜ＰＲポイント＞

①産学官医連携　医療機関、大学、パラスポーツ団体、民間事業者、DMO、スポーツコミッションなどとの連携！
②世界レベルの大会・合宿誘致　パウダースノーのスキー場、冷涼な気候を生かした大会、合宿の誘致等による地域活性化！
③次世代育成　地元ゆかりのトップアスリート、民間事業者との連携によるこどものスポーツ機会の確保！

＜現状・課題＞

- 冬期間の運動不足と障がい者の活動制限によりスポーツ実施率の低下
- 人口減少等による地域経済の縮小と「稼ぐ力」
- 次世代の夢と郷土愛を育む機会の不足

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜総合的な取組内容＞

誰もが楽しめるスポーツ環境　地域資源を生かした合宿、大会誘致　こどもが将来に夢を持てるスポーツ体験


①テトラスキーの体験試乗


②買物公園でティラノウォーキング



③デフリンピック日本代表合宿


④カムイスキーリンクス


⑤旭川ビースターズ野球体験

①テトラスキー
ユタ大学が開発した重い障害をもつ方でも自分の意思で思いどおりに操作できるスキー。
今年旭川でアジア初の体験会を開催

②市民スポーツの促進と中心市街地の活性化事業

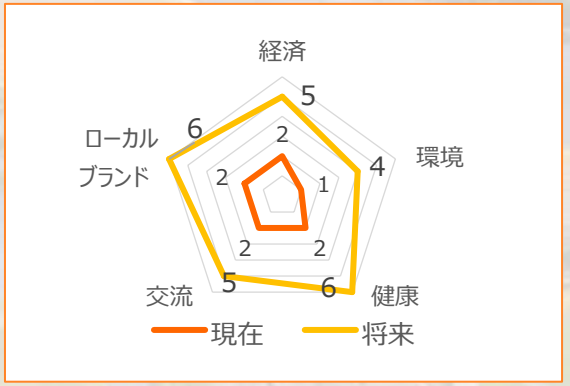
多様な関係主体との連携強化

④世界的にも雪質が評価されている市所有のスキー場を拠点とした事業展開

⑤ヴォレアス北海道や旭川ビースターズ等地元プロチームによる子ども向け教室

オールシーズン・スポーツアクションシティへ

＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

旭川市観光ｽﾎﾟｰﾂ・ｼﾃｨﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ部ｽﾎﾟｰﾂ推進課
TEL：0166-23-1944

ずどーんと広げよう奈井江みんなの健康づくり

スポまち！表彰2026
②北海道奈井江町

＜目標＞　　計画期間：～令和　12年　3月31日

運動参加率を60%へ
コンディショニングセッションの普及・実践を通じて、町民の運動習慣を定着。「コンディショニング教室」や奈井江町オリジナルの「ずどーん体操」で、子どもから高齢者まで、誰もが楽しく健康づくりに取り組めるまちを目指す。

健康寿命の延伸とQOL（生活の質）の向上へ
専門的な知識・技術を町民へつなぎ、町民同士が健康づくりを支えあう「奈井江町モデル」の構築を目指す。

＜ＰＲポイント＞

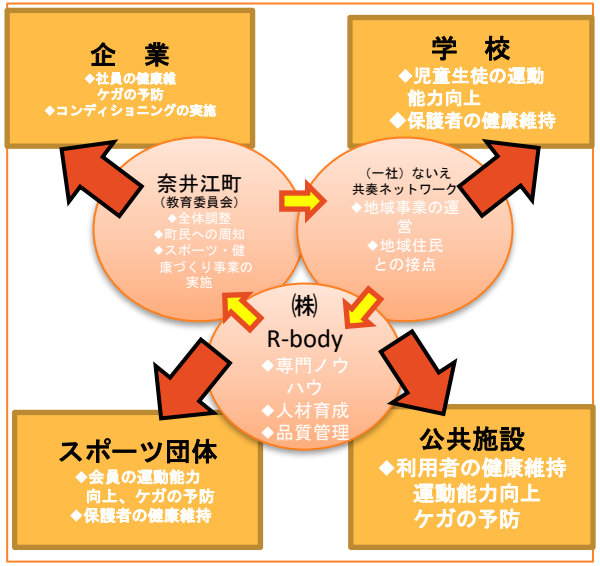
専門家の力をまちの力へ
専門的なコンディショニングを、子どもから高齢者まで、町ぐるみの健康づくりへと展開。
人材育成を通じ町民主体で続ける「奈井江町モデル」を目指す。
・**専門性：**専門トレーナーによる本格的なコンディショニングを実施。年間延べ4,159人（町民1人あたり年0.9回）
・**展開力：**公共施設からこども園、高齢者施設、スポーツ少年団など、あらゆる世代、場へ広く展開。
・**独自性：**コンディショニングを軸に、子どもの運動能力向上、ローカルスポーツ「テニピン」、オリジナル「ずどーん体操」を一体的に推進。
・**独自性：**「コンディショニングリーダー」を育成・配置し、町民同士が健康づくりを支え合う仕組みを構築。将来的な町民主体の自走を目指す。

＜現状・課題＞

◎少子高齢化により人口減少が顕著で、まちの活気がなくなってきている。
◎ゲームやスマートフォンで遊ぶことが多く、身体を動かす機会が減ったためか、子どもたちの運動能力の低下が著しい。
◎誰もが健康で安心して暮らせるように、全世代が取り組むことのできる運動が必要。



＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜総合的な取組内容＞



コンディショニング

ケガをしにくい身体づくりや、肩こり・腰痛などの身体の不調改善を目的とした運動。複数人で無理なく、楽しく健康な身体づくりに取り組みます。



パーソナルセッション

一人ひとりの身体の悩みや状態に合わせて行う、1対1のコンディショニング。それぞれの課題に合わせたエクササイズを行います。



テニピン

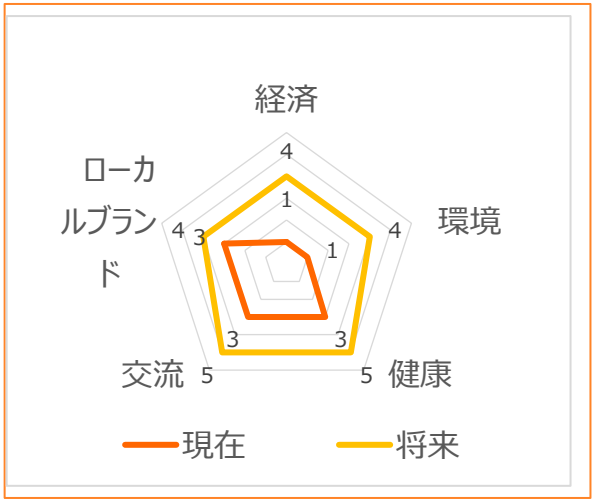
テニスをもとにした、誰でも簡単に楽しめるスポーツ。「立つ・起きる・歩く」などの基本動作を取り入れ、子どもの運動能力向上や、生涯にわたる健康づくりにもつながります。



ずどーん体操

奈井江町オリジナル体操の約3分の体操。親しみやすい音楽で、子どもから高齢者まで楽しく身体を動かせ、町の健康づくりを広げています。

＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

奈井江町教育委員会文化振興係
TEL　0125－65－5311

「R-bodyする」を日常に　～行政サービスとコンディショニングをつなぐ、ライフステージに寄り添う健康なまちづくり～

スポまち！表彰2026
③北海道東川町

＜目標＞　　計画期間：令和8年度（2026年度）～令和10年度（2028年度）

日常生活のさまざまな場面で自然に健康づくりと「出会う」ことのできるまちを目指す。
① コンディショニングイベント延べ参加者数：2026年度 8,000名 → 2028年度 9,000名
② 公共ジム月平均利用者数：2026年度 900名 → 2028年度 1,000名
③ 健診・子育て支援等と連動した運動プログラム延べ参加者数：2026年度 210名 → 2028年度 390名
④ プログラム参加後の運動継続率：2026年度 調査開始 → 2028年度 60%　※参加前後のアンケートにより運動習慣の変化を評価

＜ＰＲポイント＞

①【待つ健康づくりから、届ける健康づくりへ】
健診・子育て支援等の行政サービスにコンディショニングを組み込み、自ら運動の場へ参加しにくかった住民にも健康づくりの機会を届ける。
②【ライフステージを横断する健康づくり】
子育て世代、働く世代、高齢者まで、時間・場所・生活環境に応じた運動機会を創出し、誰もが日常の中で身体を動かせる環境を整備。
③【「参加人数」で終わらない、行動変容までを評価】
プログラムへの参加人数だけでなく、公共ジム等への移行や参加3か月後の運動継続、運動習慣・健康意識の変化まで評価し、事業改善につなげる。
男女別・年代別にも分析し、届いていない層を把握して翌年度の事業改善につなげる。

＜現状・課題＞

・2021年からコンディショニングを起点とした健康まちづくりを推進し、公共施設、学校、福祉施設等、町内の様々な場所へ運動機会が広がっている。
・一方、子育てや仕事、生活環境等により、**健康づくりに関心があっても、自ら運動の場へ参加することが難しい住民**も存在する。
・そのため、住民に「健康づくりの場へ来てもらう」だけでなく、**健診・子育て支援等、住民が日常的に接する行政サービスの中に運動機会を組み込み、これまで届きにくかった層へ健康づくりを届けること**が必要である。
・さらに、体験を一過性で終わらせず、公共ジムや地域のコンディショニング事業につなげ、**継続的な運動習慣へ移行させる仕組みづくり**が課題である。

＜総合的な取組内容＞



① 健診 × コンディショニング
「知る」から、その場で「動く」へ。
特定健診の結果説明と同じ会場で運動プログラムを実施。健康状態を知る機会を、その場で身体を動かす最初の一歩につなげる。



② 子育て支援 × コンディショニング
「子どもがいるから運動できない」を地域で解決。
社会福祉協議会等の地域ボランティアと連携した託児環境を整え、産後・子育て中の母親へコンディショニングと公共ジム利用講座を実施。



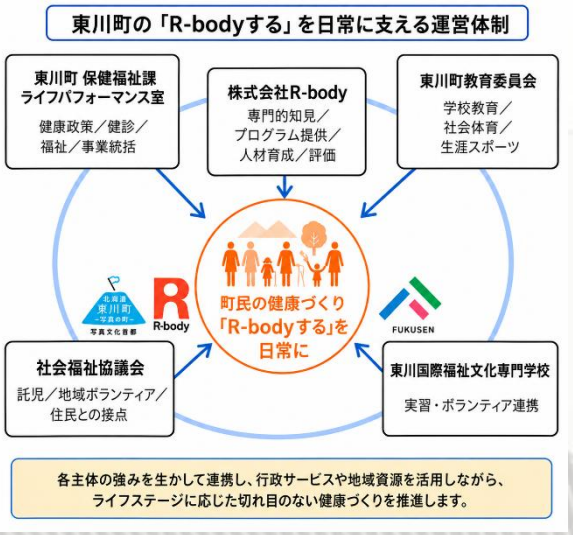
③ 日常 × コンディショニング
時間と場所の壁を越える。
早朝や夕方、公園等の身近な場所で「朝活」等を実施し、仕事や子育て等で日中参加しにくい住民にも運動機会を提供。



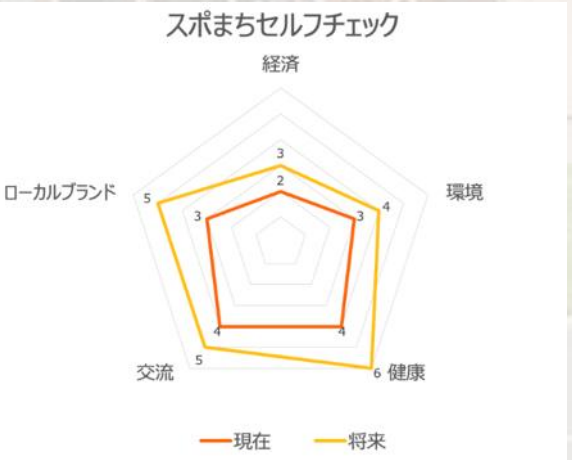
④まちなか × コンディショニング
「見る」ことから健康づくりとの出会いをつくる。
ストリートギャラリーを通じて、町民の「R-bodyする」日常を発信。通学・散歩・買い物等の生活導線の中で、子どもから高齢者までが健康づくりに自然に触れるきっかけを創出する。

【カラダを整え、人がつながり、まち全体のライフパフォーマンスが高まる文化を東川町に。】

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

東川町　保健福祉課　ライフパフォーマンス室
電話：0166-82-2111

人を実らせ、町が芽生える長ぐつアイスホッケー。

～ 長ぐつアイスホッケーを通じて、町民がスポーツを楽しみ、スポーツとともに人生を歩めるまちに。 ～

令和９年度 発祥50周年！

スポまち！表彰2026
④北海道釧路町

＜目標＞　計画期間：～令和　１１年３月３１日

『長ホ』を楽しむ町民
する、みる、ささえる、応援する、参加する、体験する等様々な関わり方で『長ホ』を楽しむ。

育った人・つながり
『長ホ』を通じて、地域を支える人材が育つ。他分野で活躍する人材がうまれる。

新たな挑戦・出会い
つながりの中から新しい挑戦や担い手、活躍の場がうまれる。

次世代への継承
地域で育った人材や組織が、次の世代・新たなスポーツへとバトンをつなぎ続ける。

KPI指数　関連大会・事業の実施数（R9.3 2回→R10.3 3回→R11.3 5回）　大会の参加者数（R9.3 1,300人→R10.3→1,350人→R11.3 1,400）
関連事業の参加者数（R9.3 300人→R10.3 500人→R11.3 550人）　関係スタッフの参画者数（R9.3 100人→R10.3 120人→R11.3 125人）

＜ＰＲポイント＞

① **『長ホ』は、釧路町が誇る唯一無二の地域資源！**
② **『長ホ』で人を育て、まちのスポーツが育つ！ ➡『長ホ』から育った木の実が、新しい挑戦、担い手、活躍の場につながっている。**
③ **『長ホ』をみんなで育て、未来へつなぐ！ ➡ 多様な主体が協働し、発祥100年を目指し継続する仕組みを確立、強化する。**
④ **『長ホ』で町のエンゲージメントを向上する！ ➡『長ホ』を楽しみ、支え、応援し、広げる人が育つ＝人づくり・まちづくりへ**

＜現状・課題＞

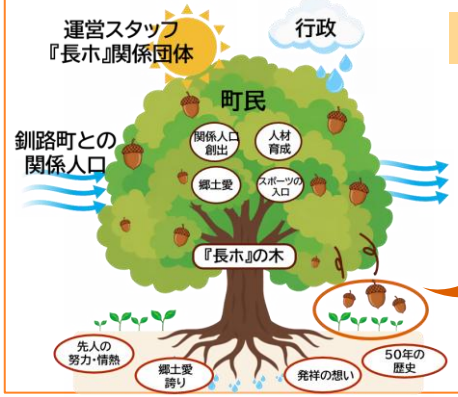
▲課題
- 人口減少や少子高齢化の進行
- こどもや働き世代のスポーツ離れ
- 多様なスポーツ機会の不足
- 地域コミュニティの変化によるつながりの希薄化
- 『長ホ』参加者の増加と裾野の拡大や次世代への継承

★現状
- 発祥の地という唯一無二の地域資源
- 誰でも楽しめるコミュニティスポーツ
- 世代を超えて人をつなぐ存在（風土）
- 人材育成や地域コミュニティの活性化に寄与
- 郷土愛を醸成
- 全国に関係人口を創出

＜総合的な取組内容＞

『長ホ』を通じて「スポーツ人材」が育ち、その人がまた地域のスポーツを育てる循環をつくる。

令和９年度の発祥50周年を契機に、これまで培ってきた「人・組織・つながり・文化」を次の50年へ継承し、町民がする・みる・ささえるなど、様々な形でスポーツに関わり続けられる環境をつくります。



『長ホ』の木の実は、まちの可能性。

① 『長ホ』×次世代育成
町のこどもはみんな『長ホ』を知っている。
- 小学校の冬の体育で『長ホ』をもっと活発に！
- 『クロスアイス長ホ』(4人制)の実施で小さなこどもも参加可能に
- 『長ホ』教科書の配布や活用
- 運営スタッフ・審判・関係者を育成

② 『長ホ』×関係人口づくり
発祥の地を全国の『長ホ』仲間の聖地へ。
- 全日本選手権大会を開催！（全国の愛好者が交流を深める）
- 全日本長ぐつｱｲｽﾎｯｹｰ連盟の設立
- 全国の愛好者や団体とのつながりを強化（釧路超民登録促進）
- 夏の『長ホ』大会を実施
- 情報発信強化・仕掛けづくり
- ガッホくんを活用したPR

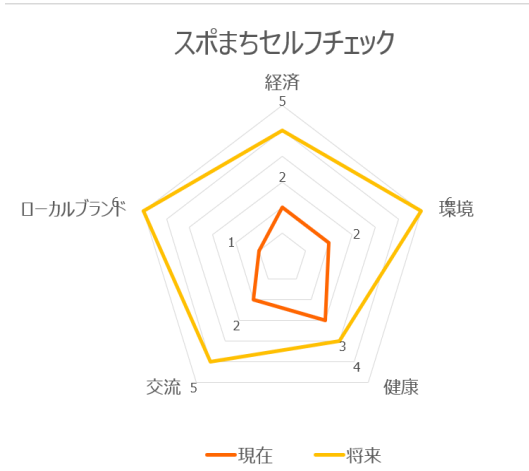
③ 『長ホ』×まちづくり
『長ホ』があるまちを町民みんなで楽しむ。
- 50周年大会をお祭りに！
- 大会に参加しない人も楽しめる事業を実施（しばれるランド）
- 地域団体・企業・行政が連携
- 『長ホ』を軸に地域コミュニティを活性化
- ハード面を整備し長く愛される環境を整備

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

『長ホ』をみんなで育て、未来へつなぐ推進体制。



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

釧路町教育委員会社会教育課スポーツ係
0154-62-2301

ラリーで繋ぐ地域と人びと・「モータースポーツ文化ツーリズム」プロジェクト！

スポまち！表彰2026
⑤宮城県利府町

＜目標＞　　計画期間：令和８年４月１日～令和１１年３月３１日

モータースポーツ「ラリー」を通じた地方創生の実現

人口減少社会においても**「選んでもらえるまち」**の実現を目指し、ラリーを基軸とした本町独自の**「モータースポーツ文化ツーリズム」**を構築し、クルマの持つ可能性を最大限に活用した特色あるまちづくりで地方創生を推進します。

KPI：ラリーイベント来場者数（年間）15,000人、町内宿泊者数（イベント開催時）100人、広域連携自治体数１自治体

＜ＰＲポイント＞

◎**「おもしろいまち・選んでもらえるまち」**の実現を目指し、独自のスポーツ文化の創造として**「モータースポーツ」**を選択！
◎**「WRC東北開催！」**を最終目標に、広域連携ラリーで自治体の枠を超えた波及効果を作っていきます！
◎ラリーをツールとして、**「みる」「する」「ささえる」**あらゆる立場の人が関わることができる包括的な仕組みを構築していきます！

〈現状・課題〉

段階的に「モータースポーツのまち・利府」としてのイメージ定着を図っているものの、本町独自のスポーツ文化として持続的に発展させていくためには、**観光ブランドの確立と広域への情報発信**、体験型コンテンツの整備による**経済波及効果の拡大**、官民連携による**担い手育成と機運醸成**、そして周辺自治体との広域連携による**競技規模の拡大**という４つの課題に取り組む必要がある。

〈総合的な取組内容〉

1.「みる」環境の整備・観光ブランドの確立

〇観戦エリア「ギャラリーステージ」の整備
〇シンボリックドライバー招致体験企画
〇ラリー観戦・バックヤードツアーの開催



2.「する」機会の拡充・地域経済への波及

〇おもてなし応援エリアの設置
〇ラリーカーへの同乗体験や00カー同乗体験
〇オートテストチャレンジ・ラリー講習会の開催
〇滞在型「2days rally」の開催





3.「ささえる」人材・体制の育成

〇ラリー応援団の創設（説明会やセミナー開催）

4. 広域連携・競技規模の拡大

〇利府町モータースポーツ推進協議会の設立
〇広域連携ラリーの開催（林道、産廃処分場の利活用）
〇練習場の整備検討

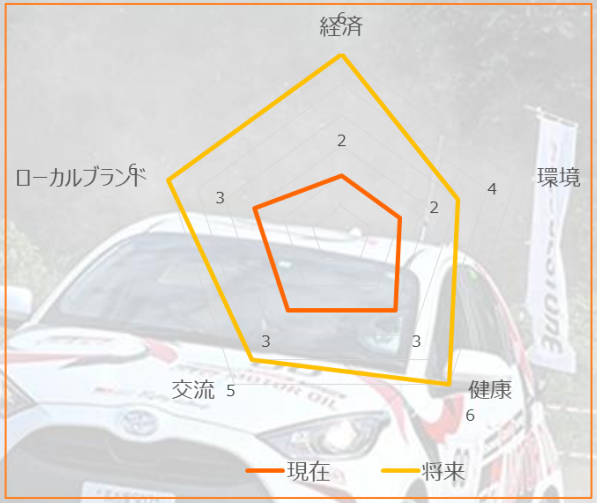
経済効果・観光振興・地域活性化・モータースポーツの振興など、広範囲にわたる効果を波及させながら、将来的な「WRC（世界ラリー選手権）」の東北開催を目指します！

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号
利府町企画部
スポーツ振興課　022-767-2190

「スポーツ立市よこて」でまちを元気に！ こころとからだ まちを動かす交流拡大プロジェクト

スポまち！表彰2026
⑥秋田県横手市

＜目標＞　計画期間：～令和11年3月31日

新設された"デジタル・スポーツアリーナ"IRISOアリーナ横手を起点にスポーツの力で新しい地方創生のカタチをめざします！

- ①市民が日常的にスポーツ・健康づくりに親しめる拠点に
- ②大会・合宿誘致とスポーツツーリズムへの接続「選ばれるまちへ」
- ③市内トップスポーツチームとの連携と未来のアスリート育成
- ④市民の命を守る防災拠点の整備

主なKPI：「スポーツによる地域活性化」に対する市民満足度69.4%の達成（R10年度） 市民のスポーツ実施率51.0%の達成（R10年度）

＜ＰＲポイント＞

スポーツ参画	屋内ランニングコースや健康プログラムなど、季節や環境を問わず安全に市民が活動できる環境を創出
地域交流	国内最多5台のスポーツAIカメラで大会を全コート同時ライブ配信／合宿・大会を誘致できる設備環境
地域防災	地域の指定避難所・広域防災拠点として十分な備蓄と連携体制の構築／危機対策課との連携

＜現状・課題＞

① 体育館の老朽化が進む → スポーツ環境の充実と「する・みる・ささえる」スポーツの推進が必要
② 冬期間の積雪やクマ出没などによりスポーツ実施率が低水準 →「スポーツをしない人」を含めた市民の健康づくりが必要
③ スポーツを活用した地域の魅力発信が弱い → スポーツを核とした「健康・交流・地域活性化」への展開が必要

＜総合的な取組内容＞

2026年7月1日「IRISOアリーナ横手」開館



・大規模大会に対応できるアリーナ
・豪雪や猛暑でも市民が安全に運動できる環境（屋内ランニングコース、スタジオ、トレーニング室）
・国内最多5台のスポーツ自動中継AIカメラ
・災害時の避難所や備蓄、3日分の電力を供給できる発電機を整備

官民連携によるスポーツ参画・地域交流に向けた施策の実施



・大相撲巡業やバスケ、バレー等の試合の開催
・AIカメラでアリーナで行われる各種大会・イベントを映像化
・全試合を専用ページ「横手スポーツライブ」で同時生配信
・Vリーグバレーボールチーム「スカイロケッツ秋田」とのコーチング実証やエキシビションマッチの配信などを実施

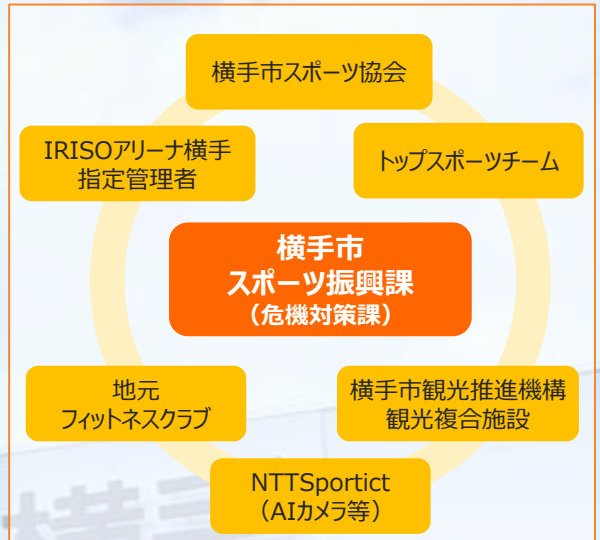
市内外から人が交流するまちへ



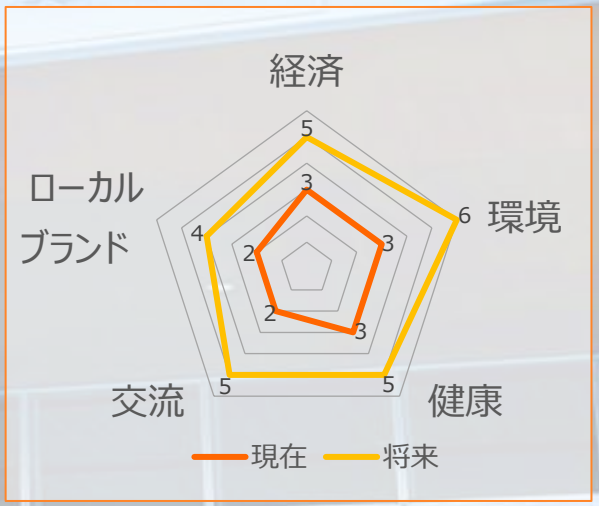
・誰もがスポーツ・健康に取り組める環境
・合宿・大会で「選ばれるまちへ」
・家族や地元チームの応援でまちを元気に
・地域の防災拠点としての役割

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

横手市教育委員会　スポーツ振興課
TEL:0182-35-2173

茨城県龍ケ崎市の新たな挑戦【スポーツクライミングのまち龍ケ崎】



＜目標＞　　計画期間：～令和１２年３月３１日

「スポーツクライミング」を通して生まれる多様なつながりや、市民参画によってシビックプライドや活力が醸成される好循環が生まれ、新たな地域の魅力として市の持続的な発展につなげていきます。

- 「スポーツクライミングのまち龍ケ崎」の参画意欲向上
- サブアリーナウォール利用者の増加
- 大会・イベントの開催

＜ＰＲポイント＞

トップクライマーゆかりのまち

本市出身在住で東京2020オリンピック銅メダリストの野口啓代さんを中心としたトップクライマーが集う他にはない優位性に着目、「スポーツクライミング」を基点としたまちづくり

スポーツクライミングを通した交流人口の拡大

大会や体験会を通して、競技の魅力を発信するとともに全国から交流人口を誘引

RYUGASAKI
CITY OF
SPORT CLIMBING

スポーツクライミングのまち龍ケ崎

〈現状・課題〉

若者の「転出抑制」や「定住促進」が全国の多くの自治体で喫緊の課題となっている中、龍ケ崎市においては、国選択・県指定無形民俗文化財「撞舞」や、市商工会女性部の有志の方々が始めたまいんコロッケをきっかけにご当地メシ決定戦で日本一に輝いた「龍ケ崎コロッケ」など、地域資源を活用した取組を行っているが、龍ケ崎市が選ばれるまちとして、主に若年層への訴求力のある新たな魅力づくりが必要である。

〈総合的な取組内容〉

にぎわい創出



市と野口啓代さんが共催で開催している「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」は、全国のみならず海外からも選手が出場し、大会賛同社の協賛による豪華な演出のもと、「スポーツクライミングのまち龍ケ崎」を最も象徴するイベント。

教育・学習



プロモーション



産業振興



環境整備

持続可能な事業展開のための資金調達、競技環境の充実、外部人材を活用する。

競技者支援

競技段階の層に応じた支援に関するニーズに基づき、支援制度を展開する。

スポーツクライミングが地域の魅力となり、誇りと活力にあふれるまち龍ケ崎へ

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

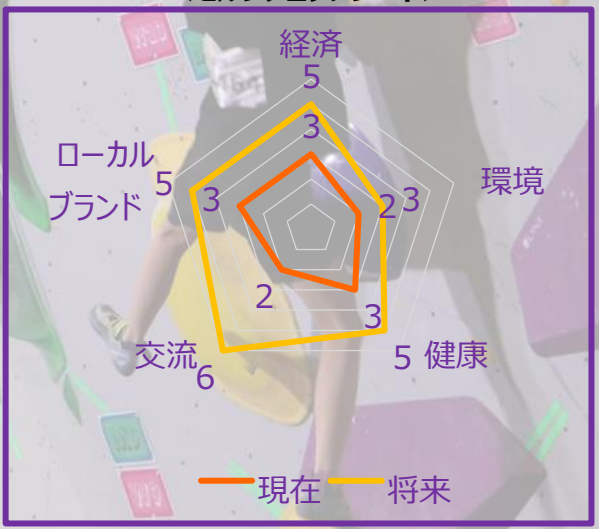
多様なステークホルダーが相互に連携し、「スポーツクライミング」を基点とした地方創生に取り組む。



商工会、観光物産協会、青年会議所、大学、金融機関、鉄道会社、商業施設、学校長会、総合型地域スポーツクラブ、指定管理者etc

- 野口啓代さん（オリンピックメダリスト）
- 槍崎智亜さん（オリンピアン）
- 地域おこし協力隊
- 山岳連盟

＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

茨城県龍ケ崎市健康スポーツ部
スポーツ推進課　0297-64-1111

オブスタクルスポーツでさらなる進化を目指す 「スポーツシティ かさま」

スポまち！表彰2026
⑧茨城県笠間市

＜目標＞　　計画期間：～令和12年3月31日

オブスタクルスポーツを新たに加え、唯一無二のアーバンスポーツ複合拠点で地域を活性化

①オブスタクルスポーツの全国大会・世界大会の開催
②スケートボードやBMX、ブレイキンなどのアーバンスポーツの合同大会やイベント等の開催
③地域にオブスタクルスポーツを根付かせ、健康づくりや持続可能な取り組みの体制を確立
【KPI】 オブスタクルスポーツの大会開催…年3回、アーバンスポーツフェスの開催…年3回



＜PRポイント＞

- **国際基準の施設で全国大会・世界大会を開催し、大会参加者や関係者、来場者へ笠間市の食や観光をPR！**
- **既存の設備を活用したアーバンスポーツの合同大会やイベント、伝統芸術（笠間焼等）と掛け合わせたスポーツツーリズム等で幅広い誘客！**
- **市民デーや健康づくり教室の開催、アーバンスポーツクラブチーム創設等でオブスタクルスポーツを身近な存在へ！**

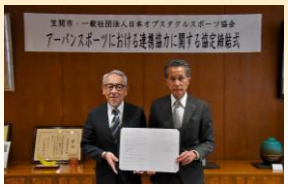
＜現状・課題＞

・人口減少による地域経済の衰退の危機、広域から若年層を呼び込む「圧倒的な独自性」の不足
・笠間芸術の森公園未開園エリアの活用、恒常的な集客コンテンツの不足、多様化するレクリエーションニーズ
⇒ **地域資源を利活用等で再編集して圧倒的な独自性を創出し、地域外から人と消費を呼び込む施策が必要**

＜総合的な取組内容＞

◎一般社団法人日本オブスタクルスポーツ協会と**「アーバンスポーツにおける連携協力に関する協定」**を締結(令和8年6月23日)

●コース設計
●完成後の大会誘致
●情報発信
などにおける連携



◎アーバンスポーツの合同大会やイベント等を開催



◎2028年ロサンゼルス五輪の近代種目の1つに採用された**オブスタクルスポーツ施設を整備予定**(令和10年3月開園予定)

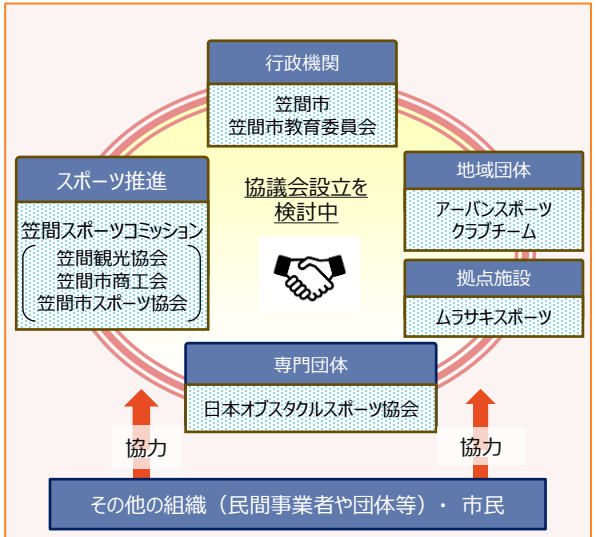
▶東日本初、国際大会基準の「OCR100mコース」
⇒ **インバウンドも視野に入れた広域からの集客**
▶誰でも気軽にチャレンジできる「オブスタクルボックス」
⇒ **体験イベント等で幅広い集客、市民の健康増進**


OCR100m公認コース

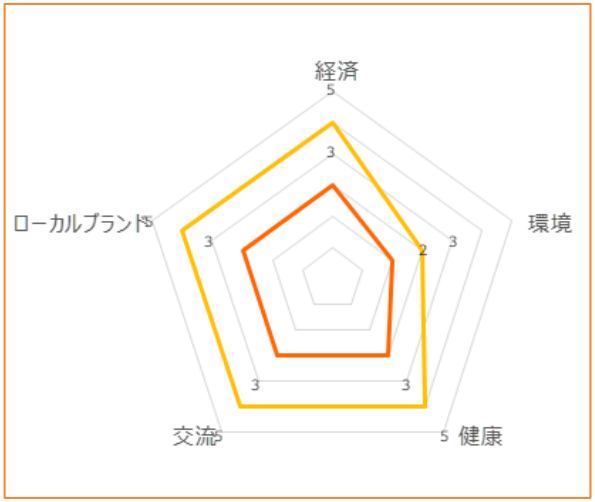

オブスタクルボックス

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

笠間市教育委員会教育部生涯学習課スポーツ振興室
TEL:0296-77-1101

「ピックルボールで、世界とつながる。スポーツで、まちの未来を拓く。」 ～生涯スポーツ「ピックルボール」を核とした茨城県境町のまちづくり～

スポまち！表彰2026
⑨茨城県境町

＜目標＞

計画期間：～令和13年３月31日



“ピックルボール”を軸に地域の未来を元気に！

① 【スポーツ合宿受入延べ団体数】 40団体（令和7年度）➡ **230団体**（累積・令和8年度～令和12年度）
② 【社会増減数】 138人増（令和7年度） ➡ **約1,000人増**（累積・令和8年度～令和12年度）
③ 【SAKAI Tennis court 2020 延べ利用者数】 **約20,000人**（累計・令和8年度～令和12年度）



＜ＰＲポイント＞

①「誰もが楽しめる生涯スポーツ」として、ピックルボールを地域に定着
年齢や経験を問わず楽しめる特性を活かし、**生涯スポーツ**・**健康づくり**・**地域コミュニティの形成**を推進するとともに、ジュニア選手の育成につなげる。

②「スポーツ×交流×国際」を通じて、まちの新たな人の流れを創出
大会・合宿の誘致や**スポーツツーリズムを推進**するとともに、姉妹都市・米国ホノルル市との交流を深め、**国内外から人が集うスポーツ拠点**を目指す。




▲ピックルボールを楽しめるSAKAI Tennis court 2020

〈現状・課題〉

①人口減少・少子高齢化に伴う地域活力の低下に加え、運動不足による健康課題への対応が必要
誰もが**継続的にスポーツに親しみ**、健康づくりや地域での交流につながる機会を創出することが課題となっている。

②東京2020大会を契機に整備したスポーツ施設等の、大会後の有効活用と持続的な利用促進が課題
大会開催時だけでなく、日常的な利用や交流人口の創出につながる**新たなスポーツコンテンツの導入**が求められている。

③国際交流や既存の地域資源を活かした、新たな交流人口・関係人口の創出が必要
姉妹都市である米国ホノルル市との交流実績をはじめとする当町の強みを、スポーツを通じた地域活性化につなげる必要がある。

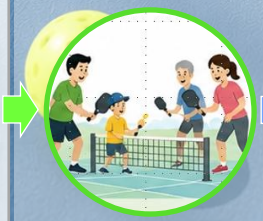
〈総合的な取組内容〉

拠点
【SAKAI Tennis court 2020】
既存スポーツ施設を有効活用し
屋内外計8面の
ピックルボールコートを整備



コート整備　備品整備　誰でも利用可

①健康・生涯スポーツ
みんなが楽しめる！



健康づくり
コミュニティー形成

②育成・強化
未来のアスリートを育てる！



体験・スクール
ジュニア育成

③スポーツツーリズム
人が集い、つながる！



合宿・大会誘致
交流人口の拡大

④国際交流
世界とつながる！



国内外から人が集う
スポーツ拠点
姉妹都市交流推進

⑤地域活性化
地域の未来を元気に！



地域経済の活性化
持続可能なまちへ

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

町（自治体）
（スポーツ・健康推進・観光・公共交通等の関係部門含む）
- 全体取りまとめ
- 一線級の“地域おこし協力隊”の活用
- ピックルボールを通じた国際交流の推進
- 健康増進等に向けた継続的なスポーツ体験の機会の提供　等



官民連携の地域公社
（（株）さかいまちづくり公社）
- スポーツツーリズム等の観光コンテンツ開発
- 多様な関係者との連携調整 等

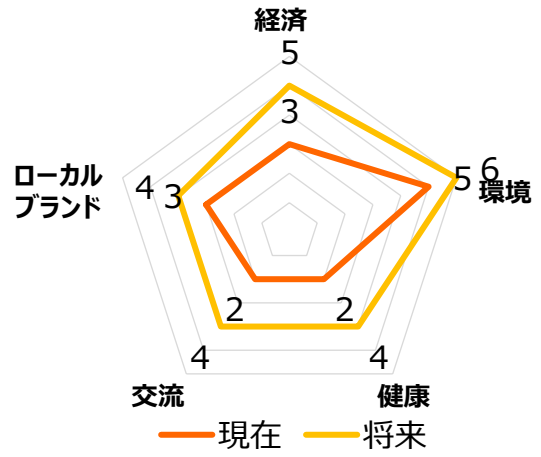
【多様な関係者例】
商工会、観光協会、青年会議所、旅館料理組合、飲食業組合、境町いきいきクラブ連合会、観光バス事業者　等

指定管理事業者
（ピックルボールコート）
- 施設の管理・運営
- 合宿等受入れ整備（主にソフト面）
- 無料体験教室開催 等

外部アドバイザーと連携

境町戦略会議委員、参与 等
（国・大学・民間企業等のメンバーで構成）
- 町が実施する事業について様々な角度から指導・助言等を行う

＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和8年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

茨城県境町 政策統括部 地方創生課
0280-81-1309

いつでも、どこでも、誰とでも。ベースボール５でつなぐ『スポーツ元気都市・かぞ』

＜目標＞　　**計画期間：**～令和１０年３月３１日

「加須市健康・医療・スポーツ推進計画（第５章）」の推進エンジンとして『ベースボール５』を位置づけ、
「いつでも、どこでも、誰とでも」スポーツに親しめる環境を構築！

競技体験者数：600名（R8）→2,000名（R9）　／　障がい者も参加できるイベント数：２つ（R8）→３つ（R9）

＜ＰＲポイント＞

○バットもグローブもいらない5人制野球「ベースボール５」で、埼玉県加須市が誇る最高峰のアスリート資源（日本代表・高校ユース日本一）を**全市民の健康づくりへ還元**
○学校体育への導入や、幼児から80代・障がい者までが同じコートで対等に戦う「加須フェスティバル」を通じて、年齢や性別、国籍の壁を越えた**インクルーシブな空間を創出**
○「加須市健康・医療・スポーツ推進計画」と強固に連動し、**スポーツ未実施層を解消しながら、誰もが主役に！**

＜現状・課題＞

○市民の主体的な生涯スポーツ実践において、従来の競技スポーツだけでは**運動習慣のない層（未実施層）の取り込み**に限界がある。
○年齢、性別、障がいの有無に問わず、高額な用具や遠方の施設移動の負担なく、身近な広場等で即座に始められる**ユニバーサルなスポーツプログラムが不足**している。
○市内には、B5日本代表輩出という資源があるが、市民の健康づくりや教育現場への還元動線が未確立である。

＜総合的な取組内容＞

世界トップレベルのアスリート資源を学校教育・地域イベントに融合させ、幼児から80代までがコート上で対等に混ざり合う
「多世代・ダイバーシティ共生コミュニティ」を創出
→ 市民の日常的スポーツ実施率（上位計画KPI）の底上げ・都市ブランドの向上を同時に達成

行政支援（伴走パートナー）
・加須市による予算・会場（ふじアリーナ）確保
・上下関係のない、民間活動のバックアップ
・各セクターを柔軟に繋ぐ官民ハブ機能

地域経済・コミュニティ
・加須青年会議所(JC)主導の体験イベント
・幼児から80代まで混ざり合う市民大会
・市民が日常的に競技に触れる基盤づくり

国際・観光（ツーリズム）
・フランス代表チームの合宿誘致、受入
・国際親善試合の定期開催による交流
・インバウンド創出
・郷土料理「 加須手打うどん 」体験

競技・アカデミー
・B5日本代表による市内小中学校の巡回指導
・花咲徳栄高校によるユース世代の牽引
・地元大学の参入で「高・大」が接続

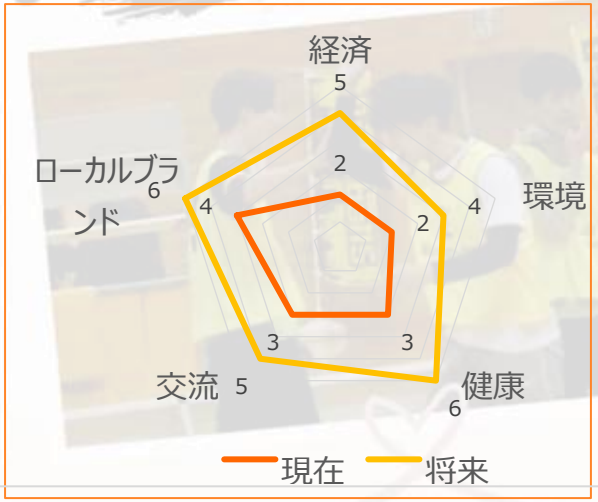
福祉・インクルーシブ
・車椅子ソフトボール協会との緊密な連携
・「車いすB5」オリジナルルールの共同開発
・障がいの有無を超えたバリアフリーな交流

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

加須市健康スポーツ部スポーツ振興課
０４８０－６２－６１２３

クライミングでつなぐ、人・地域・未来～「クライミングの町・小鹿野」を目指すスポーツ・観光まちづくり～

スポまち！表彰2026
⑪埼玉県小鹿野町

＜目標＞　　計画期間：令和９年４月１日～令和１２年３月３１日

小鹿野町が抱える交通アクセス等の課題や人口減少というハンデを克服するため、豊かな自然とスポーツクライミングを融合させ、力強くスポーツツーリズムを推進。
①【関係人口の創出】継続的な繋がりを通じた町への愛着（シビックプライド）の醸成。
②【地域経済の活性化】スポーツツーリズムによる新たな人の流れを生み出し、持続可能なまちづくりを実現。
町内全体の観光入り込み客数（年間）：R11年度末までに355,000人を目指す（R7年度345,000人）

＜ＰＲポイント＞

①**世界的クライマー**が町の観光大使としてアドバイザーを務める。
②**秩父地域最大の町営クライミング施設**を整備し、町内外に関わらず**誰でも気軽にスポーツクライミングを始められる環境**を確保。
③クライミング競技全国大会の誘致。（全国中学生ボルダー競技大会が毎年小鹿野町で開催）

＜現状・課題＞

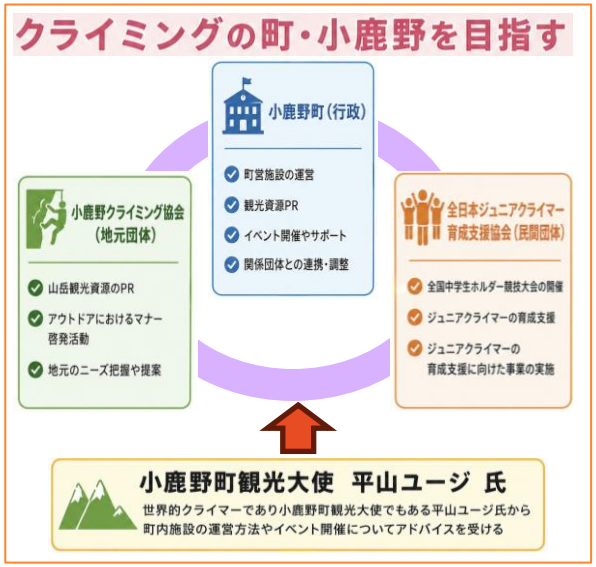
〇小鹿野町は都心から日帰り可能な立地。日本百名山の「両神山」やロッククライミングで有名な「二子山」などの豊かな山岳観光資源を有する。一方で町内に鉄道がなく、**町内面積の８割を占める広大な山林**により**交通の面では大きな制約**。
〇令和７年度時点で総人口約10,000人に対し65歳以上の高齢者の割合は40%超。14歳以下の年少人口は約7%程度に留まっており、今後もさらなる人口減少が進む見込み。
〇持続可能なまちづくりを実現するために、スポーツツーリズムを通じた新たな人の流れを生み出す必要がある。

＜総合的な取組内容＞

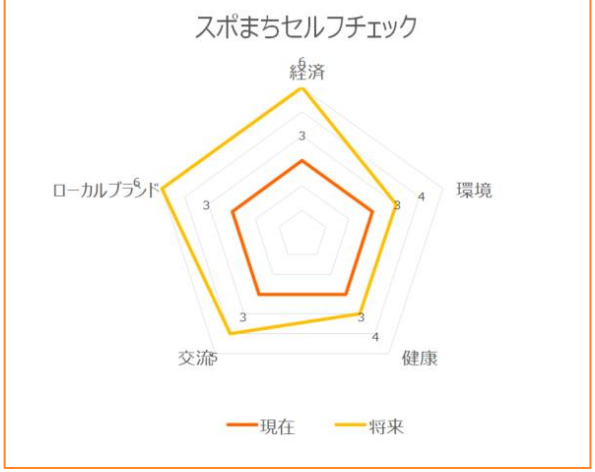
クライミングを入口として、
①「スポーツを始める町民が増える」
↓
②「子どもたちが夢や目標を持つ」
↓
③「全国から競技者が集まる」
↓
④「家族や関係者が町を訪れる」
↓
⑤「宿泊・飲食・観光につながる」
↓
⑥「地域経済が活性化する」
↓
⑦「小鹿野町の認知度が高まる」
↓
⑧「さらに人が訪れる」
という好循環を生み出すことを目指します。



＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

小鹿野町役場商工観光課
☎０４９４－７５－５０６０

東京に残る大自然×ふるさと納税！「学びと経済の循環型スポーツを推進するまち"おうめ"」

スポまち！表彰2026
⑫東京都青梅市

＜目標＞　　計画期間：～令和16年３月31日

青梅らしいスポーツ体験・学びの機会を通じて、スポーツ実施率やふるさと納税額UP！

【KPI】・事業延参加者数　150人(R10) → 200人(R11) → 300人(R16)
・市民スポーツ実施率　50.0%(R10) → 55.0%(R11) → 70.0%(R16)
・青梅市ふるさと納税額　60,000千円(R10) → 62,000千円(R11) → 70,000千円(R16)

＜ＰＲポイント＞

都心から１時間という立地と自然を生かしたスポーツ体験をふるさと納税でパッケージ化して発信！

①青梅市を走る"多摩川"を活用したリバースポーツ体験事業を実施し、豊かな自然・川での安全について学びながら、青梅らしいスポーツの充実を！
②青梅市にひろがる"森林"を活用したスポーツ体験事業を実施し、森林活用について学びながら、誰でも楽しむことができるスポーツの充実を！
➡上記スポーツ体験に青梅での宿泊を一体化させ、ふるさと納税返礼品としてパッケージ化して提供し、経済的な循環のあるスポーツの充実へ！

〈現状・課題〉

都心へのアクセスが便利な立地にあり、豊かな自然資源を有していることから、その特徴を活かしたスポーツまちづくりが必要！

①美しい自然環境を多様な主体による様々な活動によって保全するとともに、しっかりとした安全管理を行い、スポーツを含めたあらゆる分野での活用を図っていくことが必要
②地域産業や観光資源の強みを生かすとともに、多様な連携により新たな価値を生み出し、それらを発信していくことで、まちに活力と賑わいを創出していくことが必要
③生涯学習としてのスポーツに加え、経済的な循環が生まれるスポーツの"産業化"を目指してしていくことが必要

〈総合的な取組内容〉

東京都心では味わえないスポーツ体験事業を実施し、ふるさと納税の枠組みでパッケージ化して提供します！



①多摩川で学び、楽しむカヌー体験教室
〇実際の多摩川で水に触れながら、その危険性についても学んでいく
〇都心から１時間という好立地を活かし、市外からの参加者も受け入れられるように
〇オリンピアンなど、市民アスリートの協力も得ながら、スポーツと自然の魅力を発信

②間伐～加工まで！青梅の森林を学びながらつくるマイモルック教室
〇実際に森に行き、間伐から体験することで、自然に直接触れて学ぶ機会を確保
〇自分たちでモルックをつくることで、スポーツへの興味・関心アップ
〇障害の有無にかかわらず、家族や仲間と誰でも楽しめるスポーツ

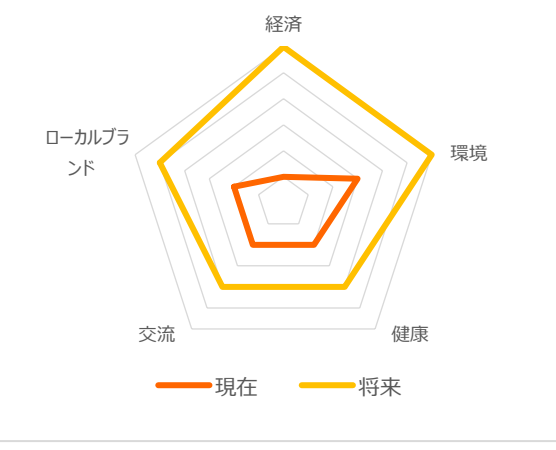
➡これらの体験に青梅市内での宿泊を一体化させ、ふるさと納税の返礼品として提供！今後は他のスポーツ体験もメニュー化し、さらなる循環を！

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号
東京都青梅市教育委員会生涯学習部スポーツ推進課
TEL0428-22-1111

富山市「アーバンスポーツをつなぐ、むすぶコンパクトシティ富山」推進計画

スポまち！表彰2026
⑬富山県富山市

＜目標＞　　計画期間：～令和１４年３月３１日

①**中心商業地及び富山駅周辺地区の歩行者数**：歩行者数を基準値64,094人／日（R7）を66,360人／日（R13）へ拡大。
②**「とほ活」ユーザー数と歩行量**：市の人口の約10%にあたる4万人を達成。とほ活ユーザー平均歩行量を基準値6,422歩（R7）を7,100歩（R13）へ拡大。
③**スポーツインバウンドと空き施設の民間活用**：国際規格リンクを活用した県外合宿を年10団体以上誘致。周辺空き施設の民間活用。
④**スポーツ施設の認知度向上**：市内の多種多様なスポーツ施設の認知度向上

＜ＰＲポイント＞

①**LRT×多様なスポーツ施設**：路面電車をスポーツの架け橋として、駅北（スケボー3x3）や南側の商店街（アイススケートリンク）などの沿線のスポーツ拠点をつなぐ。
②**デジタルスタンプラリー**：「とほ活」のスタンプラリー等のポイントインセンティブを活用し全世代の能動的な運動習慣を定着することで、平均歩行量を増加。
③**データ利活用**：アプリのアンケート機能や移動ログから周遊・健康増進を効果分析。



〈現状・課題〉

①**回遊不足の顕在化**：富山駅の北側では、「YKK APアリーナ」や「NiX アーバンスケートパーク」など、若年層やアスリートが集うアーバンスポーツの先進拠点として発展している。一方で、富山駅の強力な集客力を中心商店街エリアへ十分に波及できていない。
②**商業の課題と冬期の身体活動低下**：中心商店街エリアの空き店舗数は依然として横ばい状況であり、活性化に向けた強力な集客コンテンツが必要。また、冬期の積雪などにより外出機会が減少し、屋外での身体活動の機会が確保しにくい。

〈総合的な取組内容〉

LRTシステム（路面電車）及び市の人口の約10%（4万人）の参画を目指す健康アプリ**「とほ活」**を活用し、路面電車沿線のスポーツ拠点をブリッジさせ、**データ駆動型のスポーツエリアを形成する。**ひいては**健康づくりとまちづくりが融合した持続可能なまちを目指す。**

① 国際規格・通年開館 アイススケートリンク整備支援事業

中心商店街のアーケードにおける通年開館の**「アイススケートリンク（アイスホッケーの国際規格）」**整備を支援。
通年の全国強化合宿の誘致や幅広い年代の来街者の参加が期待できるものであることから、周辺店舗の**消費促進**と**宿泊者の増加が期待できる。**



② 南北アーバンスポーツ連携事業

駅周辺の強力な集客力を中心商店街エリアへと回遊させる連携事業の実施
・体験型クロストレーニング：
「スケボー＆アイススケート」による足のエッジコントロールや「3x3バスケ＆アイスホッケー」による判断力、視野拡大など、マルチトレーニング企画の開催。
・ストリートカルチャー創出：
リンクにDJブースを設置、BGMやライトアップ演出。



③ とほ活アプリによる市内縦横断デジタルスタンプラリー・効果分析事業

歩くことや公共交通の利用、イベント参加等でポイントが貯まり、豪華景品に抽選応募できるアプリ**「とほ活」**を活用し、路面電車沿線の各スポーツ拠点のデジタルスタンプラリーを実施。
また、ユーザーへのデジタルアンケートやスタンプラリーの移動情報により、**経済波及・健康増進効果を分析。**



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

《歩くライフスタイル戦略会議（富山市）》
富山市役所内において、部局分野横断的な組織を形成し、全市的な歩くライフスタイルの推進を総合的に連携・調整

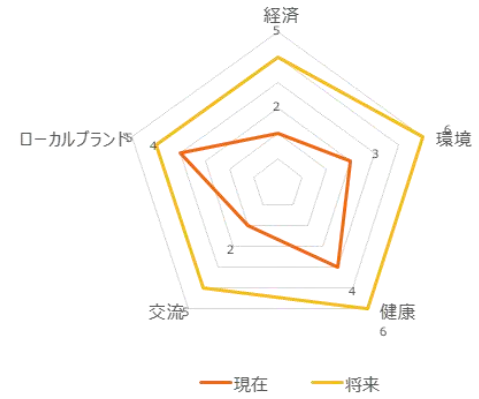
まちづくり推進課
全体調整・連絡・連携担当
「とほ活」関連事業の総括

＜保健、福祉部局＞ 健康
＜市民部局・教育委員会など＞ スポーツ
＜都市部局・商工部局など＞ まち

協働・連携

《民間事業者・教育機関ほか》
・連携イベントやアプリの利用促進などの普及啓発に関する連携
・高校や大学などの教育機関への講座や連携事業の実施　　など

＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号
富山市 活力都市創造部 まちづくり推進課
TEL　076-443-2054

NEXT 走る村うるぎプロジェクト―ランニングを核とした交流人口・関係人口の創出―

スポまち！表彰2026
⑭長野県売木村

＜目標＞

計画期間：令和8年度～令和10年度（2026～2028年度）

年間3,000人の来訪を、再訪・交流・消費・関係人口へつなげる

R11までに

合宿者1,727→3,000人へ
交流人口・関係人口創出／村内消費・交流への波及



＜ＰＲポイント＞

人口460人の村に、3,000人が走りに来る

標高800～1,000m
400mトラック・起伏・清流・温泉・食ランタメとの官民連携



〈現状・課題〉

合宿受入れ 3,000人規模から減少、コロナで激減
2017年：3,053人 → 2024年：980人 → 2025年：1,727人

課題：①受入体制 ②走る環境 ③魅力の発信不足
合宿者を**「一度きりの来訪者」で終わらせず**、再訪・交流・地域内での経済循環・関係人口へつなげる。

〈総合的な取組内容〉

「呼ぶ・走る・泊まる・つながる・また来る」を一体化 → **「合宿誘致」から「地域との継続的な関係づくり」へ**

01.受け入れる
宿泊・食事・温泉・施設を一体で案内
合宿誘致・受入体制の強化。
受入後アンケートの実施。

02.安心して走れる
安心して練習できる環境づくり
走る環境の整備・見える化し、初めて訪れるランナーでも安心な設備や情報を整備する。

03.きっかけをつくる
訪れるきっかけを増やす
村内練習会や大会、合宿型イベントを実施。関西圏の大会等とも連携し、来訪機会を創出する。

04.滞在を楽しむ
「練習場所」ではなく「また来たい滞在地」へ
温泉、地元食、農産物、自然、村民交流などを合宿に組み込み、地域資源と組み合わせた滞在価値の向上を行う。

05.つながる・また来る
再訪者・ファン・応援者・関係人口へつなげる
参加者情報や満足度を蓄積、再訪営業、招待施策、商品・SNS発信等を通じて、再訪・関係人口につなげる仕組みづくりを行う。



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

NEXT走る村うるぎプロジェクト

むらづくり連携室(売木村)

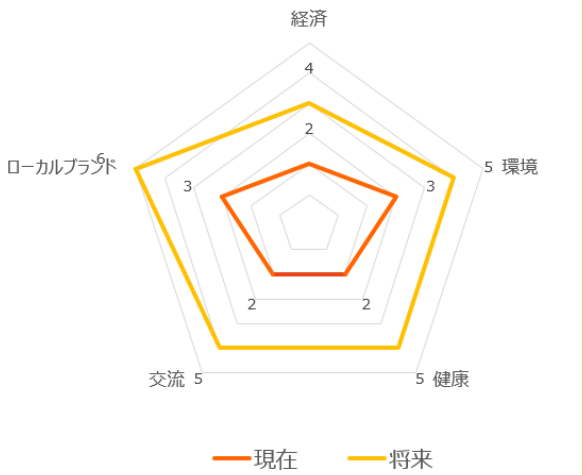
連携協定企業(ランタメ)



地域活性化起業人



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

売木村役場　産業課
0260-28-2311　sangyo@urugi.jp

「歩く、蹴る、つながる」 磐田市ウォーキングフットボール聖地化プロジェクト

スポまち！表彰2026
⑮静岡県磐田市

＜目標＞　　**計画期間：**～令和　11年３月31日

誰もが同じフィールドでプレーできる**「ウォーキングフットボール」**を通して、
健康増進・**社会的つながりの強化**・**介護予防**といったインクルーシブスポーツの普及に取り組むことで、
共生社会を実現させ、**地域課題の解決**を目指す。

■フォーキングフットボール体験会　R8（10月現在）105名→R11　400名　　■大会の参加者数　R8（見込）150名→R11　250名

＜ＰＲポイント＞

〇全国初　ウォーキングひろばの登録において自治体として全国初、唯一の事例
ウォーキングひろばとは…ウォーキングフットボールの普及を目的に、JFAやJFAに認定された団体が主催して行うイベントや体験会の総称

〇産官学連携　スポーツのまち磐田のスポーツ資源の有効活用、産官学連携へのロードマップ

〇課題解決　ウォーキングフットボールの特性を生かした多様な地域課題の総合的な解決へのアプローチ

〈現状・課題〉

・ジュビロ磐田や静岡SSUボニータのホームタウンとしてサッカー文化が根付いており、環境面（芝生や体育施設）も充実

・成人のスポーツ機会、こどもや若年層の居場所・交流機会の不足や外国人市民の増加、共生に課題

〈総合的な取組内容〉

普及・推進

・**誰もが運動する機会の創出**
特に働き盛り、子育て世代の参加を促進

・**多世代が交流できる機会の提供**
こどもから高齢者までの居場所づくり

・**外国人や障がいのある方との共生**
言語、文化の壁を超越
参加者の多様な属性を尊重

共生社会の実現と地域課題の解決へ

共創・展開

・**実行委員会発足**
産官学連携で持続可能

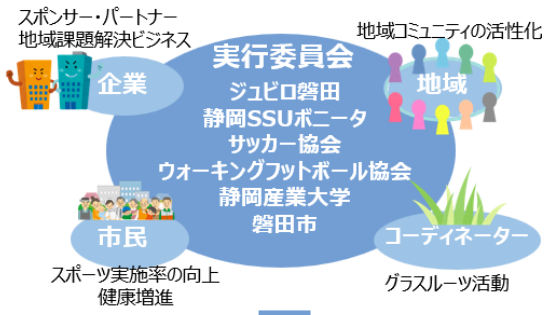
・**コーディネーター講習会の開催**
グラスルーツ活動を充実するための指導者講習

・**企業との連携**
ウォーキングフットボール推進パートナーによる地域課題解決ビジネスへ展開



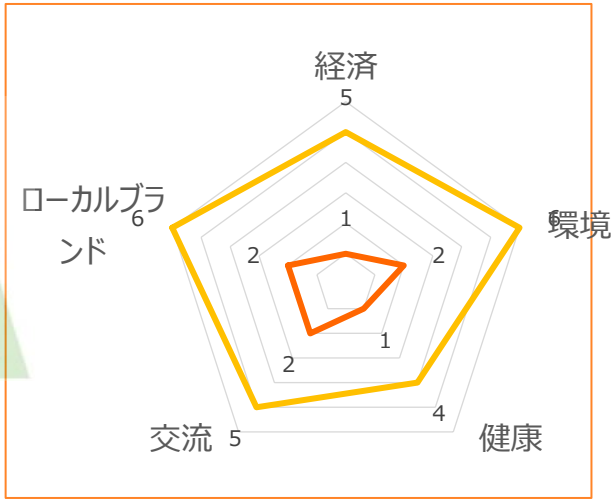
【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



行政主導から
産官学連携の自立運用へ

＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号
静岡県磐田市スポーツのまち推進課
電話：0538-37-4832

西伊豆元気プロジェクト　～人口減少に挑むスポーツまちづくり戦略～

スポまち！表彰2026
⑯静岡県西伊豆町

＜目標＞　　**計画期間：**～令和11年3月31日

①プロスポーツチームと町民が連携したスポーツイベントおよび交流会の開催 **イベント参加者目標数200人**
②地域資源および町独自のスポーツ合宿誘致補助金を活用した宿泊者数の拡大 **年間10団体300人**
③プロスポーツ公式戦を活用した町の魅力発信！ **来場者数3,000人　観光PRブース来訪者数100人**

＜ＰＲポイント＞

■県内各種競技の**プロスポーツチームや大学等と連携**し、スポーツ交流人口増加や観光客誘客に取り組んでいます。
■西伊豆町独自のスポーツ合宿誘致補助金と地域資源の温泉を活用したリカバリートレーニングで誘客を目指します。

〈現状・課題〉

（現状）人口減少や少子高齢化が急速に進行し、**スポーツ交流人口が減少**している
（課題）町民の**コミュニケーション低下**や**高齢者の孤立**に繋がっている

〈総合的な取組内容〉

プロ選手と地域団体の連携を軸にした地域スポーツ活性化、プロスポーツ公式戦を活用した観光PRによる町の知名度向上、そして、地域資源の温泉を活用した魅力的なスポーツ合宿誘致を実現し、西伊豆町の**持続可能な地域活性化に繋げていきます。**

軽スポーツ大会



ワークショップ交流会



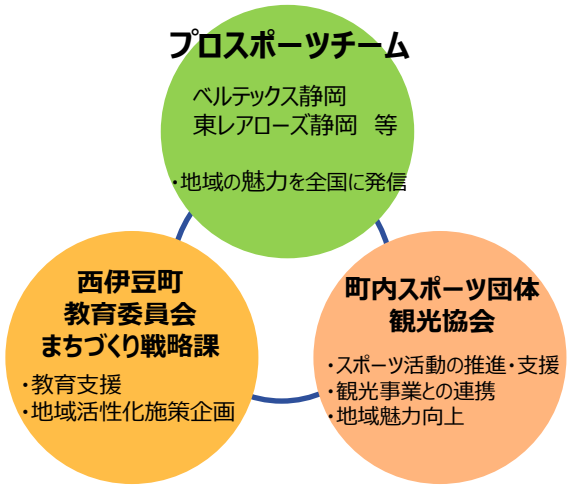
冠試合観光PRブース



⇒スポーツと観光の融合による地域ブランドの確立を目指します。

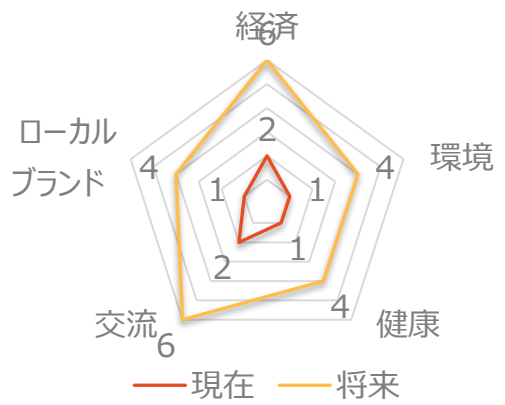
【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



各組織が連携して、スポーツを軸にした地域活性化や観光振興を推進する体制を構築する

＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

西伊豆町教育委員会　0558-56-0212

トップアスリートと共に育むシビックプライド醸成プロジェクト ～応援機運の醸成で創る「スポーツのまち」～

スポまち！表彰2026
⑰大阪府貝塚市

＜目標＞　　**計画期間：**～令和11年３月31日

・本市開催のTリーグホームゲーム(1試合)の**観戦者数増加**【R8:800名、R9:1,000名、R10:1,000名】
・**全国規模の小学生対象卓球大会**を開催【大会参加者数　R9:350名、R10:400名】
・子どものスポーツへの**関心**と**参加機会**を拡大【小中学生のスポーツイベント参加者数　R8:のべ3,500名、R9:のべ3,700名、R10:のべ4,000名】

＜ＰＲポイント＞

①「バレーボールのまち」の土台を活かし、「卓球のまち」へシビックプライドを醸成
②小学生対象卓球全国大会を開催し、選手や関係者同士の交流促進と地域経済の活性化
③「スポーツ観戦」から「スポーツ体験」へとつなげ、子どもの地域スポーツへの参加を促進

＜現状・課題　総合的な取組内容＞

認知不足と観戦者低調

スポーツにおける地域ブランディングの未確立

子どものスポーツ参加率低下

柱①　認知度の向上

市役所玄関PR展示





応援ユニフォーム着用勤務

柱②　全国小学生大会創設

全国小学生卓球大会を創設・開催



柱③　アスリート交流事業

子ども野球教室





巡回卓球指導

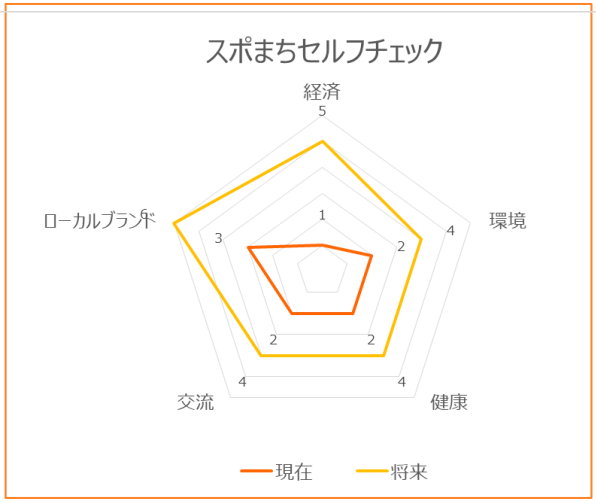
将　**来**　**像**

市民がスポーツを観戦して、そして感動し、自らスポーツに親しみ、地域全体が活気にあふれる**「スポーツのまち」**の実現を目指す。

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号
貝塚市教育委員会スポーツ振興課
TEL:072-433-7121

なんぶ全世代スポnet構想～部活動地域展開と全世代健康増進・共生型まちづくり事業～

スポまち！表彰2026
⑱鳥取県南部町

＜目標＞　　計画期間：～令和１３年３月３１日

①部活動地域展開後における指導体制の継続・発展　地域クラブ満足度：９０％（R8年）→ １００％（R12年）

②スポーツ振興コーディネーターによる多方面への支援・連携強化

障がい者施設・スポーツ交流　：年３回/６０人（R8年）　→　年４回/１００人（R12年）

③全世代の健康増進への寄与　100歳体操の実施地区・参加者数：５９地区/６１５人（R8年）→ ６５地区/６５０人（R12年）

＜ＰＲポイント＞

- 鳥取県内で唯一、**中学校の運動部活動を総合型地域スポーツクラブ「スポnetなんぶ」へ移行完了**
- スポーツ振興コーディネーターを主体に**「学校×障がい者施設」でのスポーツ体験、多世代交流の場を創出**
- 「１００歳体操」等による**全世代へのシームレスな健康増進**

〈現状・課題〉

- 学校教育におけるスポーツ活動において、部活動の地域展開を実施したが、単独部活動の維持や専門性の高い指導環境の確保が急務となっている。
- 地域福祉における健康まちづくり活動において、「１００歳体操」を含め地域での健康づくりを進めているが、真にその活動への参加が必要な方々への参加・周知が不十分である。

〈総合的な取組内容〉

１.中学校部活動の地域展開

- **「スポnetなんぶ」**を地域クラブ活動の実施主体とする。
- 各競技の**質の高い地域指導者**を安定的に確保・配置する。
- 複数校合同チームの編成や広域的な練習環境の調整等により、少子化が進む地域においても**多様な種目の選択肢を確保**する。



２.学校・地域支援と障がい者施設の共生（スポーツ振興コーディネーター）

- **町内小中学校に定期派遣・巡回**し、体力の向上や関係機関との連携を円滑にコーディネートする。
- 町内の**障がい者福祉施設等と連携**し、ニュースポーツの巡回体験会や定期交流大会を開催する。
- 小・中学生、地域住民・高齢者が共にスポーツを楽しむ**交流の場を創出する**。



３.全世代型健康増進　多世代交流プログラム

- 多種多様なスポーツ教室や地域サークル活動と**連携を強化**する。
- 一人ひとりのライフスタイルや体力に応じたスポーツ参加の「選択肢」を全町的に整備する。

「スポnetなんぶ」を核に、
世代・障がいを超えてつながる持続可能な健康まちづくりを推進します！



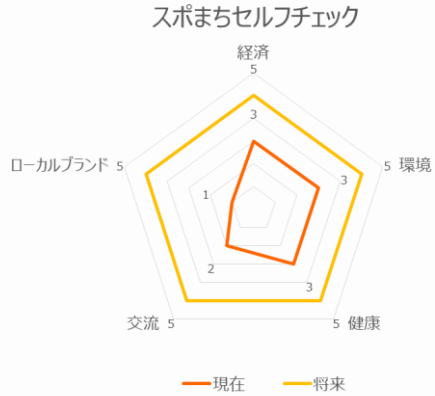
イメージキャラクター
ボネットちゃん

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

鳥取県南部町教育委員会事務局
人権・社会教育課　TEL：0859-64-3782

三原市民一人一スポーツ参加プロジェクト

～する・みる・ささえる・かたる。スポーツで人と地域がつどい・つながり・まなびあうまちへ～

スポまち！表彰2026
⑲広島県三原市

＜目標＞　　計画期間：～令和14年3月31日

- スポーツを通じて**市民一人一人が健康に過ごすことができる**まちの実現をめざす。
- **スポーツの力を**"目的"ではなく**"手段"として**活用し、複合的な**課題解決**を図り、**相乗効果**を生み出すことをめざす。
- **「5つのカテゴリーからなる取組」**をパッケージ化し、持続可能な**地域活性化**と住民の**暮らしの質向上**をめざす。

【KPI】

★　市内スポーツ施設の年間利用者数　R7：317千人　→　R13：422千人以上

★　インクルーシブスポーツへの参加者数　R7：65人　→　R13：450人

＜ＰＲポイント＞

➢ **スポーツを活用した地域課題解決型プロジェクト**

健康、子育て、教育、交流、経済などの地域課題に対し、スポーツを課題解決の手段として活用する全庁横断型プロジェクト

➢ **官民連携による推進体制**

行政、企業、大学、スポーツ団体等が連携し、地域資源を活かしたスポーツを活用したまちづくりを推進

➢ **瀬戸内・スポーツ人材・交流拠点を活かした地域資源活用**

瀬戸内海、県内随一のゴルフ場群、スポーツ人材、空港・新幹線・港を有する交流拠点機能を活かし、多面的な取組を展開

〈現状・課題〉

✓ **人口減少・少子高齢化の進行**
人口は2050年に約5.6万人まで減少、高齢化率は46.6%に上昇見込み

✓ **健康づくり・介護予防の推進**
スポーツ実施率向上や医療・介護需要への対応が必要

✓ **子どもの運動機会の確保**
運動習慣の定着や多様なスポーツ体験の充実が必要

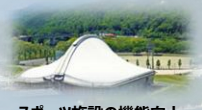
✓ **地域コミュニティの活性化**
交流・協働の機会創出による地域力向上が必要

✓ **地域資源の有効活用**
自然環境、スポーツ施設、人材、交流拠点機能などの地域資源を活用しきれていない

〈総合的な取組内容〉




子どもの運動習慣形成


スポーツ施設の機能向上


スポーツイベントの開催


市民の参加促進

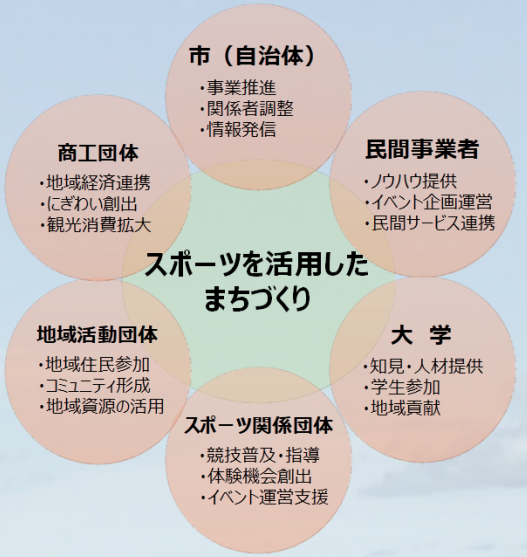

スポーツを通じた交流


スポーツツーリズムの推進

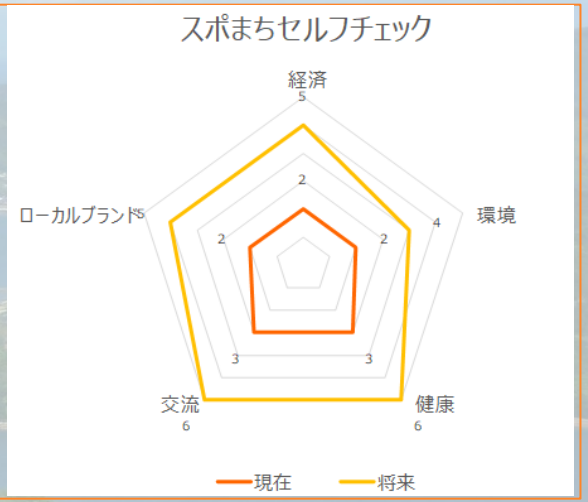

プロロードレースチームとの連携

暮らす人、働く人、大人も、子どもも、若者も健康で健やかに生活していける「元気でやさしいまち」へ

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

三原市企画財政部企画政策課
TEL:0848-67-6270

尾道市マリンスポーツ推進事業 「尾道海属」

尾道海属 ONOMICHI KAIZOKU

スポまち！表彰2026
⑳広島県尾道市

＜目標＞　　**計画期間：**～令和11年3月31日

尾道をマリンスポーツの「聖地」に！

1.海を核として、人・地域・産業をつなぐ

2.サイクリングに並ぶ尾道の新たなブランドとして、マリンスポーツを定着させる

【「現在行っている運動・スポーツ」はマリンスポーツと回答した市民の割合2.1→5%、マリンスポーツのために尾道に訪れた人の割合5.7→10%】

3.マリンスポーツを軸とした新たな市場を創造する

＜ＰＲポイント＞

1.豊かな自然環境（海・島・多島美・しまなみ海道）
多様で豊富なスポーツ資源がある。

2.マリンスポーツに楽しむことができる環境（施設・事業者）
マリンスポーツ関連施設や事業者が市内各所にある。



〈現状・課題〉

1.人口減少による海事産業の人材不足や気温の高温化による海離れ
2.「マリンスポーツ＝尾道」に対する認知不足
3.マリンスポーツ関連施設や事業者等の連携不足



〈総合的な取組内容〉

地域の視点

海に親しむ




市民体験会

海を守る




海浜清掃



SUP×ヨガ



尾道海属ーぽん

広域の視点

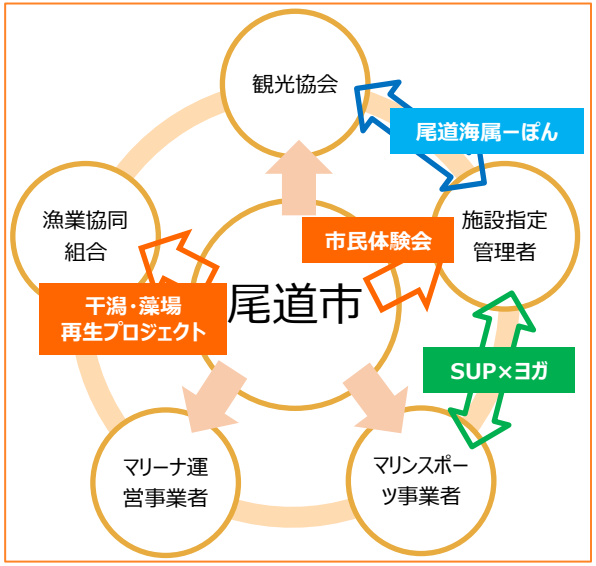


インクルーシブ
ビーチ
プロジェクト

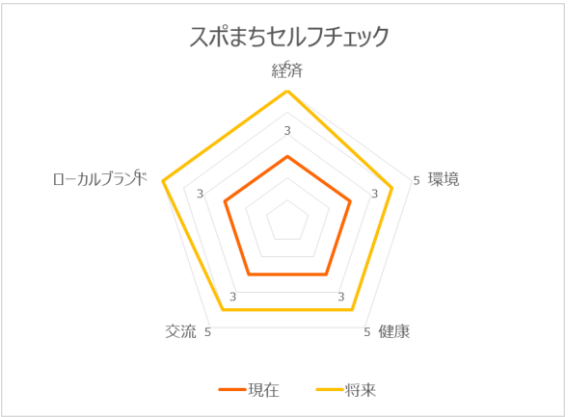


干潟・藻場再生プロジェクト

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

尾道市教育委員会生涯学習課スポーツ振興係
☎0848-20-7499

すべての市民のWell-being “幸福度” 向上に向けて　『秋の一大スポーツイベント「ふくスポ」の実施』

スポまち！表彰2026
㉑広島県福山市

＜目標＞　計画期間：～令和11年3月31日

1　魅力とにぎわいの創出
- スポーツイベントによる交流機会の創出
- 交流人口・観光誘客の拡大
- 地域行事やスポーツイベントへの参加率向上
- 市の認知度の向上

2　健康づくり
- 運動実施率の向上、運動習慣の定着
- フレイル予防、健康寿命の延伸
- ユニバーサルスポーツを通じた健康づくりの推進
- 幅広い世代の健康増進、体力向上

市民の Well-being “幸福度”の向上

＜ＰＲポイント＞

官民25団体が参画する福山を代表する新たな魅力と交流を生み出す『秋の一大イベント』

1．行政や医師会、商工会議所など計25団体で実行委員会を組み、次年度以降も官民連携により、継続して実施
2．全市民の参加型・体験型イベントとして、年齢、性別、障がいの有無等に関わらず誰でも参加できる場を創出
3．スポーツだけではなく、「運動」「食」「健康」「交流」を一体的に体験できるイベント



「第45回ふくやまマラソン」同日開催!!

＜現状・課題＞

◆週1回以上の運動実施率65%未達成
※福山市スポーツ推進計画数値目標
⇒男女の平均値で、一番低い50代は44.4%、一番高い70代は60.3%と目標値に未到達

◆小・中学生の体力向上の停滞
⇒体力・運動能力調査の結果が横ばい

◆スポーツイベント参加率の減少
⇒コロナ禍以前と比較し30%減少

◆若者の転入超過数の減少
⇒転出超過数が2,000人超

◆観光誘客数はコロナ禍以前を下回る
⇒コロナ禍以前より100万人以上減少

＜総合的な取組内容＞

ふくスポ FUKUSPO

開催日：毎年秋頃　開催場所：エフピコアリーナふくやま など

約40種類のコンテンツを実施し、「楽しく体験、スポーツで作る健康と幸せ」をテーマに、“動いて・食べて・笑って・繋がる”場を創出することで、市内外の交流や絆を深め、誰もが楽しみや生きがいを持てる「活気あふれるまち福山」の実現をめざします。

【運動】・**スポーツ体験**（野球、サッカー、バスケットボール、テニスなど約30種目）
・**ユニバーサルスポーツ体験**（モルック、ボッチャ、車いすテニスなど約10種目）
・**マリンスポーツ体験**（SUP、カヌー）

【 食 】・**マルシェ**（飲食、スイーツ、スポーツグッズ、地元特産品など）

【健康】・**健康測定**（がん検診(乳がん・大腸がん)、血管年齢測定など）
・**子育て講演会**（講師：てぃ先生）

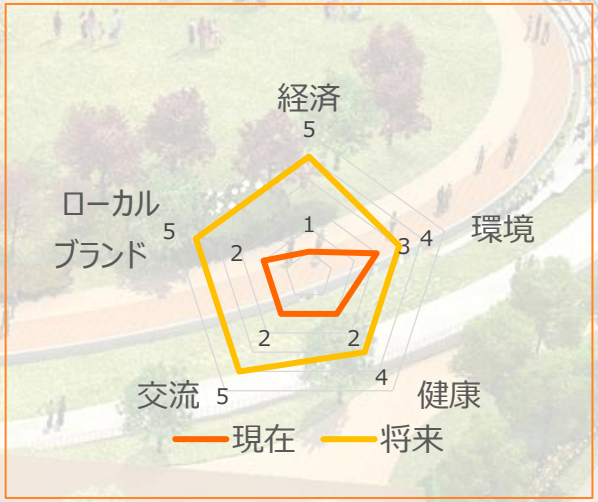
【交流】・**企業対抗大運動会**（主導：福山商工会議所青年部）
・**ステージ**（お笑いライブ、オリンピアンによるトークショー、ダンス、大道芸など）



＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号
福山市 市民局 まちづくり推進部 スポーツ振興課
TEL：084-928-1106

地域のアセットをつなぐFUKUOKAスポまちプロジェクト！

～産学官が連携し、スポーツをツールとした地域共創とまちづくり～

スポまち！表彰2026
㉒福岡県

＜目標＞　　**計画期間：**～令和１３年３月３１日

市町村（地域）が抱える課題を、企業、ﾄｯﾌﾟｽﾎﾟｰﾂﾁｰﾑ、教育機関、関係団体等が連携・協働して解決していく持続可能な仕組みを構築し、スポーツの力で輝くまちづくりを推進します！

【マッチング(プロジェクト数)】：毎年１以上のプロジェクトの実施
【広がり（参画団体数）】：参画市町村数：６０市町村（令和１３年）
【財源】：企業版ふるさと納税、補助金申請等による財源の確保

＜ＰＲポイント＞

【スポーツに熱いまち福岡】県内２２のトップスポーツチーム、多くの国際スポーツ大会の実績、日本初の取組(ﾀﾚﾝﾄ発掘事業)
【多様なステークホルダー】企業やトップスポーツチーム、教育機関、関係団体等の強みを最大限に発揮できる仕組み
【分野横断的ｱﾌﾟﾛｰﾁ】地域振興・福祉・教育・観光・産業など市町村が抱える様々な課題に対してスポーツを活用

＜現状・課題＞

・市町村スポーツ担当者を対象に、スポーツを使った地域活性化や、課題解決を目的に、事業創出のノウハウや先進事例から学ぶ**「地域スポーツイノベーションカレッジ」**を実施。(H29～)

しかし、、**マンパワー不足、行政の財源不足、課題の多様化等により、市町村単独で課題を解決することが困難に・・・**

そこで!!**スポーツに熱いまち、福岡県がもつアセットをフル活用し、地域が抱える課題を解決する仕組みづくりを推進する！**



【地域ｽﾎﾟｰﾂｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｶﾚｯｼﾞの様子】

＜総合的な取組内容＞

キックオフMTG → 課題の共有 マッチング → ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの実施 → 成果発表 ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ

出会う
○趣旨説明・方向性共有
・連携協働の必要性
○情報収集
・現状の把握
・課題のリスト化,分類

繋がる
○マッチングフェアの開催
・Pitch方式による課題把握
○課題解決のためのﾜｰｸｼｮｯﾌﾟの実施（異業種間）
○意見交換（仲間探し）

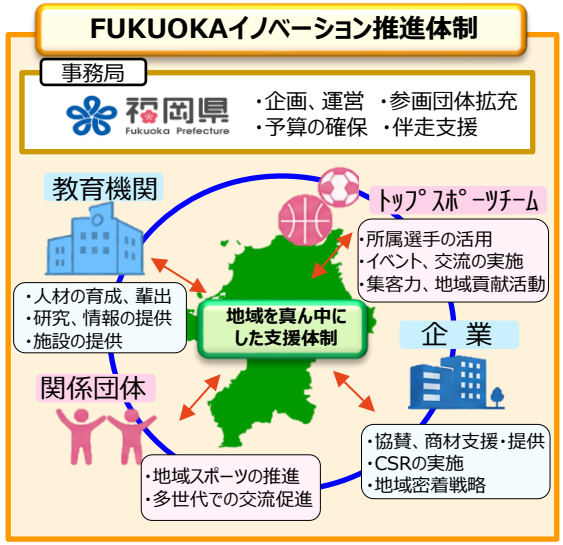
やってみる
○実証のための企画（OODAループの運用）
○効果予測、効果測定
(例)市町村×企業のｺﾗﾎﾞ企画、ﾄｯﾌﾟｽﾎﾟｰﾂﾁｰﾑとの連携事業等

拡げる
○優れた取組の発表・表彰
・まちづくりの観点から見た取組の価値づけ
○実証の横展開の可能性の検討

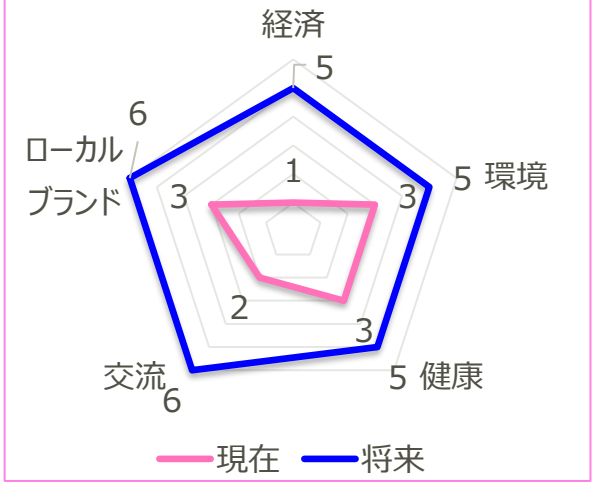
事務局	持続可能なｼｽﾃﾑ構築	・財源の確保 ・推進体制の強化
市町村	「魅力あるまち」の実現	・産学官連携による課題解決 ・地域ブランディングの強化
参画団体	地域貢献とPR	・新たな価値の共創 ・地域貢献活動の深化
事業全体	好循環の創出	・モデルケース化、事業の横展開(先進事例の発信)

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

福岡県人材育成・活躍推進部スポーツ局スポーツ振興課
TEL:092-643-3515

幼児期の「楽しい」から青少年期の「挑戦」へ―若い力が未来をつなぐスポーツのまち宗像―

スポまち！表彰2026
㉓福岡県宗像市

＜目標＞　　計画期間：～令和12年3月

子ども一人ひとりが、スポーツと「出会い」、スポーツの「楽しさ」を実感し、自分らしく「挑戦」できるまち“宗像”

（１）スポーツとの「出会い・きっかけ」をつくる ▶ 柱①スポーツサポートセンター事業を通じ、多様な世代、特に子どもにスポーツとの出会いを創出する。

（２）「続ける・選ぶ・挑戦する」環境をつくる ▶ 柱②部活動の地域展開を通じ、少子化の中でも、多様なスポーツに取り組める環境を形成する。

（３）宗像の地域資源をつなぎ可能性を広げる ▶ スポーツ資源を体系化し、本物に触れる機会を創りながら、「やってみたい！」を実現する。

＜ＰＲポイント＞

○幼児期から青少年期まで、成長に応じた多様なスポーツとの出会いをつなぐ。

○スポーツ庁長官賞受賞の学生アイデアを宗像で実装し、若い力をまちづくりへつなげる。

○若者・大学生が「する人」から「支える人」へ成長し、若い力を地域の力へつなぐ。





＜現状・課題＞

【蓄積】運動・スポーツ体験、地域活動など、宗像市独自の取組みをこれまで蓄積してきた。

【資源】学校施設や宗像ユリックス、グローバルアリーナ等、多様な地域資源を有している。

【課題】対象年齢や実施主体等が異なる取組みが多く、世代別の取組みの体系化が課題である。

【土台】幼児期から青少年期に着目し、宗像にあるスポーツ資源を体系化する。

【方向性】スポーツサポートセンター事業と部活動地域展開を柱に、新たに本物に触れる機会を加え、取組みを発展させる。＜共創＞

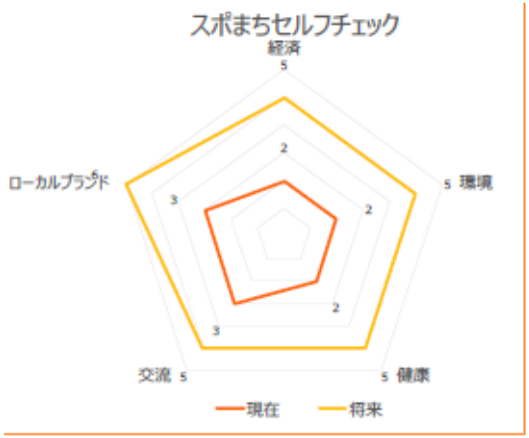
＜主な数値目標＞

指標	R11末
年間延べ参加者数	1,500人
連携団体数	25団体
学生運営参画者数	60人
また参加したいと回答する割合	95%

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



＜総合的な取組内容＞

子どものスポーツの出会いから「楽しい」を生み出し「挑戦」へつなぐ宗像市の2本の柱

土台
宗像スポーツ資源の体系化
既存事業を“点”から“線”、さらに“仕組み”へつなぐ
スポーツサポートセンター事業
学校・公共施設
スポーツ推進委員
民間連携
大学連携
部活動の地域展開

柱1 スポーツサポートセンター事業
スポーツとの「出会い・きっかけづくり」
MSSC スポーツで笑顔・元気あふれるまちづくり 宗像市スポーツサポートセンター
ポイント
親も一緒にスポーツとの出会いを…
☑むなかたっ子熟くなれシリーズ
☑親子リズム体操　☑ショッピングウォーク

柱2 部活動の地域展開
「続ける・選ぶ・挑戦する」環境づくり

ポイント
部活動の受け皿を…
☑むなクル　☑認定地域クラブ支援

共創
子どもが「本物」に触れる機会の創出

☑プリンセス駅伝参加選手による小学生交流／中・高・大学生の運営参画
☑日本シニアゴルフオープンで小学生が大会運営体験・プロスポーツ観戦
☑グローバルアリーナやアビスパ福岡との連携によるトップスポーツ選手との交流

発展的な取組
若い力の「やってみたい！」を地域で実現

ポイント
☑大学・地域・スポーツ推進委員が伴走
☑大会観戦・教室・運営体験
☑学生アイデアの実装化

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号
宗像市文化スポーツ課
0940-36-1540

大村市部活動地域展開プロジェクトからつながる一人も取り残さない地域社会
～スポーツの力で大人も子どももわくわくする大村市～

スポまち！表彰2026
㉔長崎県大村市

＜目標＞　　**計画期間：**～令和　１３年３月３１日

「中学校の部活動地域展開」を単に部活動の仕組みを変えることにとどまらず、人を育む街づくり、健康でいきいきと暮らせるまちづくりの視点をもち、**「一人も取り残さない地域社会」**の構築を目指し、大人も子どももスポーツ活動を通して幸せが循環するまちづくりを力強く推進していきます。

○休日の部活動を地域展開した部活動数88（100%）

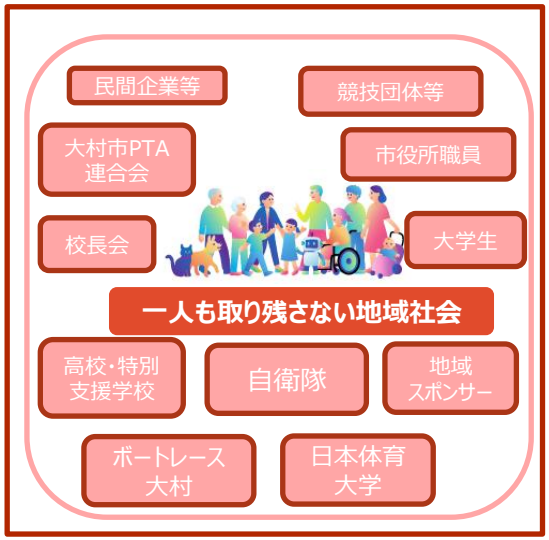
＜ＰＲポイント＞

☑**産官学連携**　**ボートレース大村**・**日本体育大学等**と連携した事業の実施
☑**安心してスポーツに取り組むことができるハード整備**　**スマートロック・ウォータークーラー・エアコン**等の整備
☑**自衛隊との連携した部活動の地域展開**　**現役自衛官**や**OBが部活動の指導者**として活躍

〈現状・課題〉

少子高齢化や若年層の市外流出に伴い、担い手不足や地域コミュニティの衰退が課題となっていることから、**教育・スポーツの振興**を通じて、**子どもの健全育成や健康増進、地域交流の促進**を図り、**活気あるまちづくり**につなげる必要がある。

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



〈総合的な取組内容〉　**小さな実践の着実な積み重ね**

環境整備

○**学校施設**
・老朽化した小・中学校施設の**改築・改修**
・全小中学校の体育館に**スマートロック・最新ウォータークーラー**を設置
・全小中学校の体育館等やスポーツ施設に**エアコンを設置**（R9～）



○**公共施設**
・スポーツ広場の改修
・プール施設整備
・陸上競技場の全天候型トラック改修
・多目的広場人工芝整備

教育・連携

○小中学校の**学校給食の無償化**（R8～）
○経済的困窮世帯への**部活動費用支援**
○中総体未実施種目における**高等学校・特別支援学校との連携**
○日体大との連携協定（調査研究・イベント等）
○大村ボートレース場で海のスポーツ教室





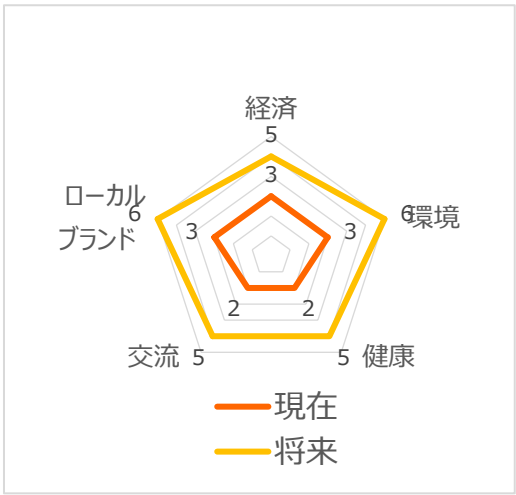


○学校の授業では経験できない**武道等体験教室**
○不登校や特別な支援を要する生徒の**スポーツ活動機会の創出**
○**指導者の資質向上**
○0～18歳まで**切れ目のない支援の充実の検討**



一人も残さない地域社会　**わくわくする大村市**

＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

長崎県大村市学校教育課
0957-53-4111（370）

「やってみたい」から「まちの日常」へ！大分市アーバンスポーツまちづくり
～体験・挑戦・交流・にぎわいをつなぐ持続可能なスポーツ環境づくり～

スポまち！表彰2026
㉕大分県大分市

＜目標＞　　**計画期間：**～令和１２年３月３１日

①「やってみたい」→「する・続ける・挑戦する」へ
こども・若者等が日常的に楽しみ、成長できる環境を育てる。
アーバンスポーツ施設利用者数　R11 22,100人

好循環

②スポーツで生まれる人流を、「まちなかの交流・回遊・にぎわい」へ
地域・商店街等とともに創る。
ローカル大会等の開催による参加者数・来場者数　R11　4,000人

＜ＰＲポイント＞

- **「やってみたい」を地域の力に！** 市民の関心を起点に、体験から日常のスポーツ参加、さらに挑戦へつなげる。
- **既存の都市公園に、新たなスポーツの場を！** 都市公園内に、木製セクションを設置し大会と日常利用で循環活用。
- **スポーツを通じて、まちににぎわいを！** 競技団体や商店街等と連携し、継続的な活動と地域の交流・回遊を促進。

＜現状・課題＞

① **若者等が集い、交流するまちなかの魅力づくり**
中心市街地に新たな人の流れや交流を生み出し、さらなるにぎわいにつなげることが必要。
② **「やってみたい」を日常へ**
R5・R6フェスで高い関心、特にスケートボードへの関心と「専用施設がない」との声を確認。ニーズを踏まえR8から施設を供用。
③ **「場所をつくる」から「人・まちを育てる」へ**
競技人口の裾野拡大、日常利用、競技団体主体の運営、施設利用による人流をまちなかの回遊・にぎわいへつなげることが課題。

＜総合的な取組内容＞

「やってみたい」を発掘し、「まちの日常」を育てるステップ

体験・ニーズ把握



R5・R6 アーバンスポーツフェスで体験機会を創出し、市民ニーズを把握。

大会・施設整備



R7・R8九州大会とビギナー大会で「みる」「挑戦する」機会を創出。
スケートボードパーク、3×3バスケットボールコートを供用開始。

日常利用を育てる



施設を活用した教室の開催。
スケートボードパークでは木製セクションを大会⇔日常で循環。

交流・にぎわいをまちへ広げる

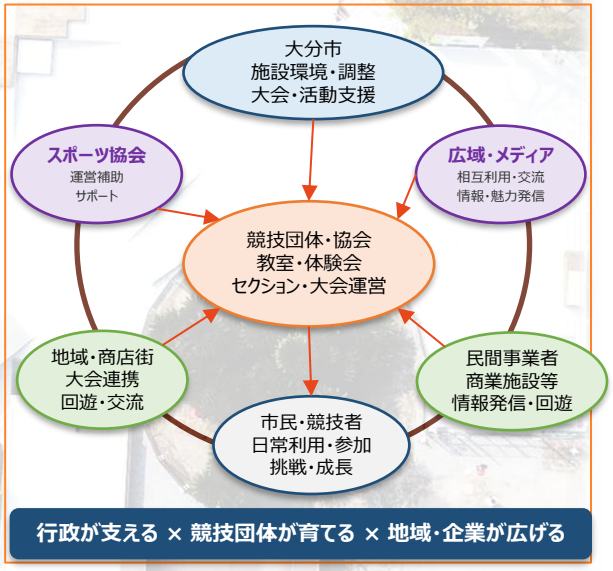


商店街等との大会時の連携を、日常の回遊・交流へ発展。

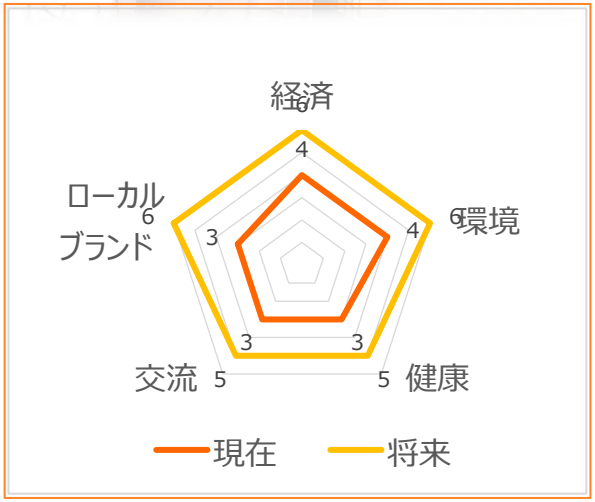
体験から日常へ！スポーツの輪を広げ、まちなかのにぎわいにつなげる

【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号
大分市企画部スポーツ振興課
電話：097-537-5650（直通）

陸上の聖地おおさき
～「日本最高の陸上合宿施設がある町」から「日本最高の陸上合宿環境の町」へ～

スポまち！表彰2026
㉖鹿児島県大崎町

＜目標＞　　**計画期間：**～令和12年3月31　日

「施設がある町」から、スポーツ施設を核に**人・交流・経済が町全体へ広がる「日本最高峰の合宿環境の町」へ**
〇合宿環境を町全体へ拡張し、閑散期を含めた通年利用による地域経済の循環を生み出す
〇陸上合宿施設をアスリートだけでなく町民も利用できる健康・交流拠点へと転換
【KPI】競技者以外の町民利用　1,000人（R11年度末）
〇科学的な育成環境を整え、大崎から世界を目指すトップアスリートを輩出することで、「人が集まり、地域が潤い、次のアスリートが育つ」持続可能なスポーツのまちを実現する。

＜ＰＲポイント＞

•合宿受入実績：全国から選ばれる拠点施設を活かし、交流と経済効果をさらに拡大。
•独自の仕組み：まるけんアプリ(地域通貨)を活用した地域密着型スポーツイベントの開催。
•産学連携強化：鹿屋体育大学との連携により、町民とアスリートが交わる交流を醸成。

＜現状・課題＞

〇充実したスポーツ施設があり、合宿誘致など一定の成果を上げている一方、その効果が施設内にとどまり、**町全体への経済・交流効果へ十分に波及していない。**
〇施設の「アスリート向け」というイメージや、閑散期の利用率、トップアスリートを継続的に育成する環境にも課題がある。
〇今後は、**施設を核として「合宿・町民利用・人材育成」を一体的に進め、スポーツの効果を町全体へ広げていく必要**がある。

＜総合的な取組内容＞

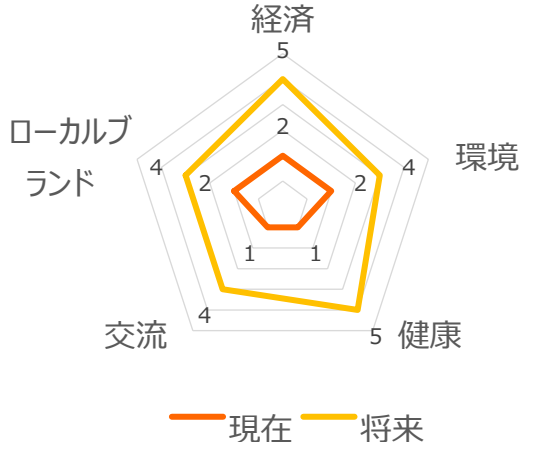


【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

大崎町役場　商工観光課
TEL:099-476-1111(内線232)

一人ひとりのお気に入りが見つかる、誰もが主役になれる居場所“瀬戸内町”
スポーツで小さな町から大きな世界へ!

スポまち！表彰2026
㉗鹿児島県大島郡瀬戸内町

＜目標＞　計画期間：～令和１１年３月３１日

町民とともに築き上げるスポーツの力・スポーツの輪・スポーツを通じての居場所!

01. 関係人口の拡大	02. 利用人口の拡大	03. 訪問人口の拡大
“する・みる・サポートする・そして知る”が軸となるスポーツイベント スポーツフェスティバル	“インクルーシブに配慮した誰もが楽しめる遊具設置公園”の環境整備を継続	競技そのものだけでなく、伝統文化の魅力“相撲”を世界へ発信!インバウンド観光誘致
参加関係者 14ブース 1,348人(R7) ▶ 25ブース 2,000人(R10)	来場者 未集計(R7) ▶ 15,000人(R10)	インバウンド誘致 0組(R8) ▶ 5組(R10)

＜ＰＲポイント＞

スポーツをきっかけに**出逢い**が広がる。**“したい”**が増える。**挑戦**が始まる。そんな居場所が瀬戸内町にある。**誰もが主人公**になれる、**お気に入りがきっと見つかる町**。そして**紡いできた競技文化**を**世界へ**届ける!

＜現状・課題＞

- “結いの心”があり、助け合い精神に溢れている町だが、人口減少、少子高齢化が進み、繋がりが希薄化している
- 関係人口に偏りがあるため、誰もが主人公になれるきっかけづくりが必要となる
- 競技を超えた魅力“文化的背景”“祭りで繰り広げられる伝統の力技”を披露し、クルーズ船誘致などインバウンド向けに魅了を発信

＜総合的な取組内容＞

01. 好奇心を原動力へ!

◉フェスティバルの充実と定着化
公式SNSを活用し最新の魅力を発信し、気軽に参加できる場として周知!

◉誰もが主体的に活躍できる場
種目ブースを拡大し、スポーツを通じて協力団体が集客や運営仕組みを学ぶきっかけに!

◉挑戦できるやりがいを生む町づくり
企画立案する機会でやりがいを感じ、活気溢れる魅力ある町に!



関係人口は町民の4人に1人という形へ。

一人ひとりが

02 わたしの居場所!

◉誰もが楽しめる居場所の公園設置
性別、年齢、身体能力、障がいの有無に関わらず誰もが集える場として認知されるよう広報!

◉お気に入りが見つかる場所
遊具利用だけでなく自然を堪能し、心の健康も養う場所へ環境整備!

◉多様なイベント活用の場所
スペースを有効活用し、地域食堂といったミニイベントの実施場所へも!



町の集客場所といえば、ココ!になる形へ。

主役の町

03. はっけよい、世界!

◉スポーツだけでなく伝統文化の“相撲”PR
五穀豊穣を願いシマの結束を表現した神事として受け継がれている相撲を披露!

◉観光誘致とした受け入れ事業の創出
インバウンド向けのHP作成や、モデルツアーを展開し導線を創る!

◉相撲競技×伝統文化=町の魅力化
旅行会社との連携、クルーズ船誘致として来町者を世界中から増やしていく!



新たな導線の観光誘致として定着する形へ。

大きな世界へ

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

“一緒に動かす”スポーツTEAM
「企画立案・運営」
・スポーツ協会・スポーツ少年団連絡協議会・スポーツ推進委員・総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会など

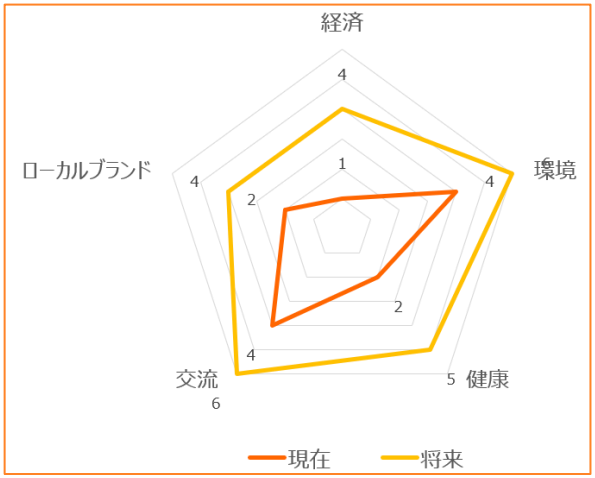
“ファシリテーター”行政TEAM
「全体をとりまとめ統括」
・担当事務局
“教育委員会社会教育課”
・観光部局
・企画部局
他関係部局との連携

町民・利用者

“持続サポートする”地域TEAM
「途切れないよう伴走」
・地域女性団体連絡協議会
・青年団連絡協議会
・学校関係者
・社会教育関係者など

“新しいへチャレンジする”観光TEAM
「新事業創出・PR」
・世界をつなぐSUMO推進協議会・大阪観光局
・観光協会及び関係者・商工会など

＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号
瀬戸内町教育委員会社会教育課
☎0997-72-2905

スポーツ関係人口創出プロジェクト　～『スポーツ×島の魅力²＝無限大』の実現へ～

スポまち！表彰2026
㉘沖縄県石垣市

＜目標＞　　計画期間：～令和　11年　3月　31日

スポーツ関係人口創出を目指す！！観光消費額1,000万円増！　『企業』『家族』『スポーツチーム』の3つの入口から創出

【企業】 持続可能なビジネスの創出とスポーツ産業の高度化

【家族】 島外からの新たな交流人口の創出

【スポーツチーム】 平日利用者増加とイノベーション創出を一体的に実現

＜ＰＲポイント＞

- 島内で人材育成できる環境を**「スポーツ×企業のオープンイノベーション」**で創出
- 島外から誘客する**「スポーツ交流合宿ツーリズム」**で新たな交流人口を創出
- AIカメラを活用し、最先端の**「思い出づくり」**を実現









〈現状・課題〉

◆「離島」という地理的に不利な条件を抱えている

- 若年層の専門人材が地域内で育ちにくい環境
- 島外の交流が限られている
- 人流が週末に集中している

〈総合的な取組内容〉

石垣島スポーツコミッションが中核となり、3つのアプローチを総合プロジェクトとして一体的に推進する

アプローチ①
『企業連携オープンイノベーション』

「アルバイト×合宿」のスキームを活用し、企業が地域事業者のもとで実務参画・実証を行い新規ビジネスを創出。スポーツを核とした持続可能なビジネスの創出とスポーツ産業の高度化を目指す。

アプローチ②
『スポーツ交流合宿ツーリズム』

島外から親子を誘客し、子どもは地元のスポーツ団体と交流合宿、保護者は観光体験といった新たなツーリズムの創出。航空券・宿泊・観光・交流手配を一括パッケージ化し販売する。

アプローチ③
『AIカメラ活用思い出づくりツアー』

還暦世代のスポーツチームをターゲットに地元スポーツ団体との交流試合を行い、その様子を撮影、配信。思い出動画として有償で販売を行う。地域密着型の観光体験ツアーを実現する。

スポーツ関係人口を創出し、『スポーツ×島の魅力²＝無限大』を実現へ！！！

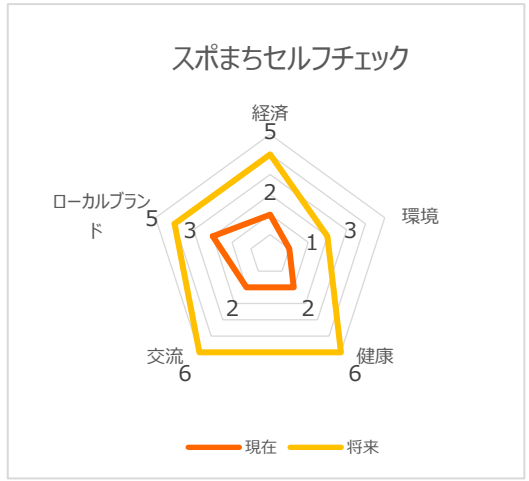
【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

石垣島スポーツコミッションが中核となり推進する



＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

石垣市企画部スポーツ振興課
0980-88-6666